

仏 教 学 部

履 修 要 項

昭 和 61 年 度

駒 澤 大 學

学 年 暦

前 期

- 4月8日(火) 入学式(学部・短大)
- 7日(月) } 新入生オリエンテーション
- 11日(金) }
- 9日(水) } 在校生成績発表(学部・短大)
- 10日(木) }
- 9日(水) } 在校生身分登録(学部・短大)
- 19日(土) }
- 10日(木) } 体育実技Ⅱ種目選択届受付
(学部2年次生)
- 11日(金) }
- 12日(土) 前期授業開始
- 12日(土) } 成績質疑応答
- 19日(土) }
- 21日(月) } 履修届受付(学部・短大)
(学部により受付日が異なる)
- 24日(木) }
- 5月13日(火) } 春季健康診断
(2・3・4年次生対象)
- 22日(木) }
- 26日(月) } 卒業論文論題受付
(締切日は正午まで)
- 6月10日(火) }
- 7月5日(土) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英
米文)・法学部・短大国文・英文の
1年次生及び経済学部の2年次生)
- 11日(金) }
- 7月10日(木) } 中間試験(授業平常通り)
- 16日(水) }
- 16日(水) 前期授業最終日
- 17日(木) } 前期定期試験(前期終了科目)
(授業休講)
- 18日(金) }
- 19日(土) 夏季休暇第1日
- 19日(土) } 体育実技Ⅱ集中授業・シーズンコース
(テニスA)
- 23日(水) } (学部2年次生)
- 24日(木) } 体育実技Ⅱシーズンコース
(テニスB)
- 28日(月) } (学部2年次生)

後 期

- 9月8日(月) } 補講期間
- 13日(土) }
- 12日(金) 前期定期試験欠試届(追試申込)
受付締切

- 16日(火) 後期授業開始
- 17日(水) } 前期定期試験成績発表及び
再試験申込受付
- 18日(木) }
- 25日(木) } 前期追・再試験(授業平常通り)
- 30日(火) }
- 10月1日(水) } 秋季健康診断(1年次生対象)
- 3日(金) }
- 3日(金) } 専攻コース指定届受付
(歴史・社会学科1年次生)
- 4日(土) }
- 13日(月) } 前期追・再試験成績発表
- 14日(火) }
- 15日(水) 第104回開校記念日(全学休業)
- 11月12日(水) }
- 14日(金) } 転部科試験願書受付
- 28日(金) } 転部科試験
- 12月4日(木) } 編入学試験願書受付
- 12日(金) }
- 10日(水) 卒業論文受付締切(正午)
- 19日(金) 冬季休暇第1日
- 19日(金) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
(学部2年次生)
- 23日(火) }
- 22日(月) 編入学試験

昭和62年

- 1月8日(木) 後期授業再開
- 14日(水) 後期授業最終日
- 16日(金) }
- 27日(火) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 28日(水) }
- 28日(水) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 2月5日(木) }
- 6日(金) 卒業論文口頭試問
- 7日(土) 定期試験欠試届(追試申込)受付締切
- 16日(月) } 体育実技Ⅱシーズンコース
(スキーA・B)(学部2年次生)
- 20日(金) }
- 19日(木) } 成績発表及び追・再試験申込受付
(学部4年次生・短大生)
- 20日(金) }
- 25日(水) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
追試験(学部1・2・3年次生)
- 3月3日(火) }
- 19日(木) 卒業者名簿発表
- 25日(水) 卒業式(学部・短大)

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
1.	卒業に必要な単位数	(3)
2.	卒業論文	(4)
3.	学士号	(4)
III	授業科目の履修方法	(5)
1.	一般教育科目の履修方法	(5)
2.	外国語科目の履修方法	(6)
3.	保健体育科目の履修方法	(8)
4.	基礎教育科目の履修方法	(9)
5.	専門教育科目の履修方法	(10)
6.	随意科目の履修方法	(14)
7.	再履修科目の履修方法	(14)
	※コード番号について	(15)
IV	履修科目の登録（履修届）とその作成順序	(17)
1.	履修科目の登録	(17)
2.	履修届記入上の注意	(18)
3.	履修届の作成順序	(19)
V	試験および成績評価	(20)
1.	定期試験	(20)
2.	中間試験	(20)
3.	追・再試験	(20)
4.	受験心得	(21)
5.	成績評価・単位認定	(21)
6.	試験時間	(21)
VI	進級について	(22)
VII	クラス制およびクラス主任	(23)
VIII	教職課程・資格講座	(23)
IX	事務取扱いについて	(24)
X	届書・願書について	(25)
XI	各種証明書取扱い窓口	(26)
	試験実施規程（抜萃）・進級規程・進級基準	(27)
	講義内容	(31)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上（7カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

A. 60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	24	132以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		4	16	16	
専 門 教 育 科 目	必 修	14	38	76	
	選 択		30		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	24	132以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		4	16	16	
専 門 教 育 科 目	必 修	14	38	76	
	選 択		30		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標をたて、2年次以降その研究目標に関連する適当な選択科目を履修し、4年次で提出しなければならない。

指導教授および論題は、原則として演習Ⅰ、演習Ⅱに基づいて決定することが望ましい。

提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を与える。

イ. 論題提出について

- (1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月26日(月)～6月10日(火) 正午まで(教務部⑥番窓口)

ロ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 論文は所定用紙(大学売店にて販売)を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。
- (6) 論文作成にあたっては「卒業論文作成の手引」を参照のこと。

ハ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
〔提出期間に遅れたとき、又は授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕
- (2) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日(月)～12月10日(水) 正午まで(教務部⑥番窓口)

ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査され、論文の内容について口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問日 2月6日(金)

3. 学 士 号

大学に4年以上(7カ年をこえてはならない)在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の学士の称号が与えられる。

仏教学部 禅学科 }文学士
仏教学科 }

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分されている。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない）
- ハ. 各学年に配分された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

人文分野	4 単位ずつ 3 科目	計	12 単位	}	合計 6 科目	24 単位
社会分野	4 単位ずつ 2 科目	計	8 単位			
自然分野	4 単位 1 科目		4 単位			

※ 2 年次までに所定の単位を修得していなければならない。

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	備 考
人 文 分 野	宗 教 学 I (1 年 次 必 修)	4	} 「宗教学 I」を含めて 3 科目選択必修	
	哲 学	4		
	論 理 学	4		
	文 学	4		
社 会 分 野	法 学 憲 法 (日 本 国 憲 法) (2 単 位 を 含 む)	4	} 2 科目選択必修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする
	経 済 学	4		
	社 会 学	4		
自 然 分 野	自 然 科 学 概 論	4	} 1 科目選択必修	
	心 理 学	4		
	人 類 学	4		

※ 「宗教学 I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と、入学手続の際に指定した外国語の計2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と、入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数	備考
英語 1G	2		} 1G・1R 2科目を必修とする。ただし1Gは英会話Iまたは英語LLIに代替できる	LLI(ランゲージ・ラボラトリー)
英語 1R	2			
英会話 I	2			
英語 LL I	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ドイツ語 1G	2	文法	} 5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修とすること	
ドイツ語 1R	2	講読		
フランス語 1G	2	文法		
フランス語 1R	2	講読		
中国語 1G	2	文法		
中国語 1R	2	講読		
スペイン語 1G	2	文法		
スペイン語 1R	2	講読		
ロシア語 1G	2	文法		
ロシア語 1R	2	講読		

※ 英語科目内容

英語 1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語 1R：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語として2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修とすること。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2 A Ⅰ	2		中 国 語 2 A Ⅰ	2	講 読
英 語 2 A Ⅱ	2		中 国 語 2 A Ⅱ	2	講 読
ド イ ツ 語 2 A Ⅰ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2 A Ⅰ	2	講 読
ド イ ツ 語 2 A Ⅱ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2 A Ⅱ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2 A Ⅰ	2	講 読	ロ シ ア 語 2 A Ⅰ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2 A Ⅱ	2	講 読	ロ シ ア 語 2 A Ⅱ	2	講 読

※英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分は、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語，第2外国語の別を学生自身が指定し，7月初旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で十分考慮の上登録すること。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は，外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については別に定める。
- ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

A. 60年度以降入学生適用

講義と実技に分かれる。講義は1年次に1科目2単位、実技は1年次1科目1単位〈体育実技Ⅰ〉、2年次1科目1単位〈体育実技Ⅱ〉の3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

- イ. 講義・体育実技Ⅰは玉川校舎で授業を行う。
- ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等で、1年次生は最初の授業・「再履修クラス」を履修する場合は教務部にて、それぞれ配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

- ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

- A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業
- B. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業
- C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

- ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コース及び集中授業等の申込み方法については教務部より配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

- ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 59年度以前入学生適用

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体 育 実 技	2	通 年

- イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等で、1年次生は最初の授業・「再履修クラス」を履修する場合は教務部にて、それぞれ配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で1年次・2年次において4科目16単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	基礎仏教学	4	
	仏書解説Ⅰ	4	
2年次	仏教語解説	4	
	仏書解説Ⅱ	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は禅学科と仏教学科で異なる。

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分れ、各学科で定められた単位を修得することになっている。

履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討した上で履修すること。

なお一度単位を修得した科目については再度履修しても単位にはならない。

禅 学 科

必 修 科 目 (46単位)

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	禅 学 概 論	4		
	禅 宗 史 I	2	中国禅宗史	
	宗 典 講 読 I	2	修証義・用心集・随聞記	
	禅 学 実 習 I	2	坐禅（坐禅儀）	
三 年 次	宗 典 講 義 I	4	正法眼蔵	
	禅 宗 史 II	2	日本禅宗史	
	宗 典 講 読 II	2	大清規・信心銘拈提	
	禅 学 講 義	2	参同契・宝鏡三昧・証道歌	
	禅 学 演 習 I	2	碧巖録・従容録・無門関	
	禅 学 実 習 II	2	坐禅（用心記）	
四 年 次	演 習 I	4		
	宗 典 講 義 II	4	伝光録	
	禅 学 演 習 II	2	洞山録・永平語録・臨濟録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8		

※演習Ⅰ・演習Ⅱの履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

禅学 科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
禅 学 研 究	4		哲 学 史	4	
禅 籍 講 義	4		哲 学 史 特 講	4	
禅 学 特 講	4	I・II・III・IV (IVは休講)	哲 学 演 習	4	
禅 特 講	4		東 洋 思 想 研 究	4	
禅 学 思 想 史	4		中 国 哲 学 史	4	
詩 偈	4		宗 教 学 概 論	4	
日 用 経 典	4		新 宗 教 概 説 新 道 教 概 説 新 宗 教 概 説 宗 教 哲 学	4	61年度は 新 宗 教 概 説 (輪番開講)
禅 美 術	4				
仏 教 概 論	4		宗 教 史	4	
仏 教 研 究	4		キ リ ス ト 教 史	4	
仏 教 教 理 史 I	2	印度	キ リ ス ト 教 概 論	4	
仏 教 教 理 史 II	2	中国	パ ー リ 語 初 級	4	
印 度 仏 教 史	4		パ ー リ 語 上 級	4	
中 国 仏 教 史	4		パ ー リ 語 演 習	4	
日 本 仏 教 史	4		パ ー リ 仏 教 特 講	4	
印 度 仏 教 文 化 史	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・V	サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
仏 典 研 究	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 演 習	4	
原 始 仏 教	4		チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
外 国 語 仏 書 演 習	4		チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
各 宗 綱 要 (浄 土 学 言 学 日 蓮 教 学)	4	61年度は浄土学 (輪番開講)	中 国 文 学 概 論	4	
			中 国 文 学 演 習	4	
仏 教 民 俗 学	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
仏 教 美 術	4		宗 教 教 育	4	
青 少 年 問 題 研 究	4		宗 教 行 政	4	隔年開講 (休講)
青 少 年 指 導 演 習	4		教 化 法	4	
哲 学 概 説	4		青 少 年 教 化 法	4	
現 代 哲 学 概 説	4		心 理 学 概 論	4	

仏 教 学 科

必 修 科 目 (46単位)

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	仏 教 概 論	4		
	仏 教 教 理 史 I	2	印度仏教教理史	
	仏 典 演 習 I	2	原人論・覚夢抄・七十五法	
	禪 学 実 習 I	2	坐禪（坐禪儀）	
三 年 次	仏 教 教 理 史 II	2	中国仏教教理史	
	印 度 哲 学 史	2		
	経 典 講 読 I	2	法句経・四十二章経・遺教経・心経・金剛般若経	
	仏 典 演 習 II	2	起信論・三論玄義・四教儀・五教章	
	宗 典 講 義 I	4	正法眼蔵	
	禪 学 実 習 II	2	坐禪（用心記）	
	演 習 I	4		
四 年 次	経 典 講 読 II	2	法華 ^{寿量品・維摩経} 普門品・般若経	
	宗 典 講 義 II	4	伝光録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8		

※演習Ⅰ・演習Ⅱの履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

仏 教 学 科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
仏 教 研 究	4		哲 学 史	4	
印 度 仏 教 史	4		哲 学 史 特 講	4	
中 国 仏 教 史	4		哲 学 演 習	4	
日 本 仏 教 史	4		東 洋 思 想 研 究	4	
印 度 仏 教 文 化 史	4		中 国 哲 学 史	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・V	宗 教 学 概 論	4	
仏 典 研 究	4		新 宗 教 概 説	4	61年度は 新 宗 教 概 説 (輪 番 開 講)
原 始 仏 教	4		新 神 道 概 説		
外 国 語 仏 書 演 習	4		宗 教 史	4	
各 宗 綱 要 (浄土学 日蓮学)	4	61年度は浄土学 (輪番開講)	キ リ ス ト 教 史	4	
			キ リ ス ト 教 概 論	4	
仏 教 民 俗 学	4		パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 美 術	4		パ ー リ 語 上 級	4	
禪 学 概 論	4		パ ー リ 語 演 習	4	
禪 学 研 究	4		パ ー リ 仏 教 特 講	4	
禪 宗 史 I	2	中国	サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
禪 宗 史 II	2	日本	サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
禪 学 特 講	4	I・II・III・IV (IVは休講)	サ ン ス ク リ ッ ト 語 演 習	4	
禪 特 講	4		チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
禪 籍 講 義	4		チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
禪 学 思 想 史	4		中 国 文 学 概 論	4	
詩 偈	4		中 国 文 学 演 習	4	
日 用 経 典	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
禪 美 術	4		宗 教 教 育	4	
青 少 年 問 題 研 究	4		宗 教 行 政	4	隔 年 開 講 (休 講)
青 少 年 指 導 演 習	4		教 化 法	4	
哲 学 概 説	4		青 少 年 教 化 法	4	
現 代 哲 学 概 説	4		心 理 学 概 論	4	

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学年とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。なお、日本語Fは外国人留学生のみを対象とする科目で1年次生より履修できる。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 宗 教 文 化 史	4		日 本 語 F	2	(初級・中級)
英 会 話 II	2		英 語 LLII	2	
ド イ ツ 語 F	2		ド イ ツ 語 FLL	2	(初級・中級)
フ ラ ン ス 語 F	2		フ ラ ン ス 語 FLL	2	(初級・中級)
中 国 語 F	2		中 国 語 FLL	2	(初級・中級)
ス ペ イ ン 語 F	2		ス ペ イ ン 語 FLL	2	(初級・中級)
ロ シ ア 語 F	2		ロ シ ア 語 FLL	2	(初級・中級)

7. 再履修科目の履修方法

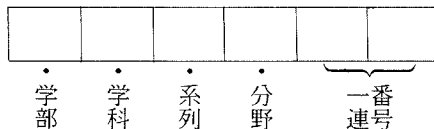
- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を、翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。再履修科目は履修制限数には含まれない。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。
- ニ. 外国語・体育実技 I（59年度以前入学生は体育実技）・保健体育理論および宗教学 I を再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※ コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

(a) 科目コードの区分



(b) 学部，学科番号は「学生番号について」での説明のとおりである。

(c) 系列，分野区分について

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1(必修), 2(選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	1
外 国 語 科 目	2	
第 1 外 国 語		
第 2 外 国 語		
保 健 体 育 科 目	4	
実 技		1
講 義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1. 2. 3
選 択 科 目		5. 6. 7. 8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3. 4. 5. 6. 7. 8

2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせている。

この学生番号は入学から卒業まで学籍異動（原級・転部科など）がない限り変わらない。学内での事務処理はほとんど学生番号で処理されるので正確に覚えておくこと。

学生番号のみかた

学籍異動				学部・学科				学籍異動の番号						
...	0	...	異動なし				
...	1	...	原級				
...	2	...	転部(科)				
...	3	...	編入				
...	4	...	原級をして転部(科) 転部(科)・編入をして原級				

学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号	学部・学科名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1		法 学 部	4	
禅 学 科		1	法 律 学 科		1
仏 教 学 科		2	政 治 学 科		2
文 学 部	2		経 営 学 部	5	
国 文 学 科		1	経 営 学 科		1
英 米 文 学 科		2	短 期 大 学	8	
地 理 学 科		3	国 文 科		1
歴 史 学 科		4	英 文 科		2
社 会 学 科		5	放 射 線 科		3
経 済 学 部	3				
経 済 学 科		1			
商 学 科		2			

(例)

6 0 1 1 0 0 1 2
 ... 学籍異動なし
 ... 仏教学部
 ... 禅学科
 ... 12番

(1986年度入学・仏教学部禅学科12番)

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次、所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の「単位履修届」用紙に必要な事項を記入し届出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年 次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	14 科 目	—
2 年 次	14 科 目 以 内	17 科 目 以 内
3 年 次	14 科 目 以 内	17 科 目 以 内
4 年 次	1 科 目 以 上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ、随意科目は、上記表の制限外とする。

ロ. 外国人留学生を対象とする随意科目「日本語F」は、1年次生より履修することができ、上記表の制限外とする。

ハ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ニ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること）

ロ. 履修届の日時・場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は、教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講・受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授 業 時 間 表 例

	月 曜 日			
	科 目 名	科 目 コ ー ド	担 任	担 任 コ ー ド
一 時 限	ド イ ツ 語 1 G	112201	百 済	879
	~~~~~			
二 時 限	保 健 体 育 理 論 前	114201	長 浜	993
	保 健 体 育 理 論 後	114201		622
~~~~~				
三 時 限	宗 教 学 I	110101	平 井 俊	735
~~~~~				
四 時 限	論 理 学	110203	国 嶋	306
	~~~~~			
五 時 限	自 然 科 学 概 論	110401	宇 和 川	104
	~~~~~			

正 しい 記 入 例

曜 日	時 限	再 履	科 目 名	科 目 コ ー ド	担 任	担 任 コ ー ド
月  (1)	1		ド イ ツ 語 1 G	1 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保 健 体 育 理 論 前	1 1 4 2 0 1	長 浜	9 9 3
	3		宗 教 学 I	1 1 0 1 0 1	平 井 俊	7 3 5
	4	○	論 理 学	1 1 0 2 0 3	国 嶋	3 0 6
	5		自 然 科 学 概 論	1 1 0 4 0 1	宇 和 川	1 0 4

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
  - イ. 科目名・科目コード、担任名・担任コードが一致しない場合
  - ロ. 時限を誤って記入した場合
  - ハ. 間違い易い数字で記入した場合（例、0と6・1と7）
  - ニ. その他、不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は、時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

### 3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順 序	授 業 区 分	授 業 科 目 (適用)	科 目 数
1	一 般 教 育 科 目	宗教学 I (必修)	1
2	外 国 語 科 目	第 1 外国語, 第 2 外国語 (選択必修)	4
3	保 健 体 育 科 目	保健体育理論 (半期), 体育実技 I (必修)	2
4	基 礎 教 育 科 目	基礎仏教学, 仏書解説 I (必修)	2
5	一 般 教 育 科 目	{ 人文分野の開講科目の中から 2 科目 (選択必修) { 社会分野の開講科目の中から 2 科目 (選択必修) { 自然分野の開講科目の中から 1 科目 (選択必修)	2 2 1
1 年次履修制限科目数			14

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。

ロ. 試験を受験できる科目は、正規の手続きを経て履修登録した授業科目であること。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担任名・主題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとじた上で提出すること。

なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目によって担任者が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I 追試験

イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記入し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

#### II 再試験

1, 2, 3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目500円とする。

#### III 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、禅学実習、その他実験実習を伴う科目は、追、再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追、再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

#### 4. 受 験 心 得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
  - ロ. 指定された日、時、試験場（教場）で受験すること。
  - ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
  - ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
  - ト. 学部、学科、学生番号、氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
  - チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
  - リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
  - ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
  - ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
  - ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
    - (1) 代人として受験したり、又は代人受験を依頼すること。
    - (2) 使用が許可されていないノート、テキスト、参考書、六法、辞書等を使用すること。
    - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机、壁等への書き込みを利用すること。
    - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
    - (5) 私語及び動作、メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
    - (6) 試験中にノート、テキスト、参考書、六法、辞書等を貸借すること。
    - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
    - (8) その他上記に類似する行為をすること。

#### 5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。

なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
  - ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
  - ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良(70点)以下とする。

#### 6. 試 験 時 間

定期試験実施時間（前期・後期とも）		追(再)試験実施時間(前期)	追(再)試験実施時間(後期)
1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30	1時限 16:10～17:00	1時限 9:30～10:20
2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50	2時限 17:10～18:00	2時限 10:50～11:40
3時限 13:00～14:00	6時限 17:10～18:10		3時限 13:00～13:50
			4時限 14:10～15:00
			5時限 15:20～16:10

試験実施規程（抜萃）が掲載されている（P. 27）ので参照のこと。

## Ⅵ 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級及び注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

○注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。

○修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得基準単位表（単位は卒業所要単位のうちとする）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
59年度以前入学生 進 級	30 単 位 以 上	60 単 位 以 上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29 ～ 20 単 位	59 ～ 50 単 位	90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～16単位不足している場合。
原 級 留 置	19 単 位 以 下	49 単 位 以 下	89単位以下。又は90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が17単位以上不足している場合。
60年度以降入学生 進 級	30 単 位 以 上	60 単 位 以 上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29 ～ 20 単 位	59 ～ 50 単 位	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19 単 位 以 下	49 単 位 以 下	89単位以下。又は90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が13単位以上不足している場合。

○59年度以前入学生についても昭和62年度から「60年度以降入学生適用の進級規程」を一斉に適用するので計画的に単位を修得しておく必要がある。

## Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 1・2年次は学科毎にクラス制をとっている。
- ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

## Ⅷ 教職課程・資格講座

仏教学部で開講されている資格取得の課程講座は、教職課程・学校図書館司書教諭講座、博物館学講座および社会福祉主事講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、博物館学、および社会福祉主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会教育の場として十分に利用され、その目的・使命を達成する博物館および社会福祉を増進させるための機関等の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。（授業科目の講義内容は、当該履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

○開講されている課程・講座

課程・講座名		備考
教 職 課 程	2年次より	
学校図書館司書教諭講座	”	
博 物 館 学 講 座	”	
社 会 福 祉 主 事 講 座	”	

## Ⅸ 事務取扱いについて

### 1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績発表後3日以内に教務部⑩番窓口にご相談すること。ただし、評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

### 2. 授業時間について

授業時間は次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

### 3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時～13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑩番窓口にご相談してその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については、午前7時現在国電（山手，中央，京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

### 6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

## X 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領	必 要 書 類	本人印	保証人印	取扱窓口	
届 書	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	本 籍 地 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保 証 人 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保 証 人 住 所 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑤
願 書	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができない場合は、保証人連署の上、願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復 学 願	休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上、願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7日までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤
	転 部 ・ 転 科 願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり	要	要	⑦

## Ⅺ 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金	
成績・卒業見込証明書(卒業年次生のみ)	教務部④番	1通 100円 (英文証明書) (1通 300円)	
成績証明書			
卒業証明書			
学士証明書			
教員免許状取得見込証明書			
単位修得証明書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)			
一般教養科目修了(見込)証明書	教務部⑤番		
在籍証明書 (中途退学者に限る)			
人物考査書	就職部		
健康診断証明書	学生部③番		
在学証明書	学生部②番		無料
学割			無料
通学証明書		無料	

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付(郵送料も同様)の上、取扱い窓口申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から10月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

## 試験実施規程（抜萃）

（昭和59年7月13日制定）

### （目的）

第1条 この規定は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

### （試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

### （試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
  - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
  - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
  - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1, 2, 3年次生の再試験
  - (2) 学部外国語科目, 体育実技, 演習, その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
  - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

### （試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

### （試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

### （受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。

- (2) 授業料その他の学費を納入していること。
2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき

(受験心得)

第8条 試験を受けるものは、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号の記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

1. この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

# 進 級 規 程

(昭和51年4月1日制定)

昭和59年12月18日改正

## (目 的)

第1条 この規程は、駒沢大学学則第14条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

## (進級基準単位数)

第2条 学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、30単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、60単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年に進級するときは、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、経済学部第2部、法学部第2部、経営学部第2部においては90単位以上、法学部においては99単位以上を修得していること。ただし、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の所要単位をすべて修得していなければならない。

## (注意進級基準単位数)

第3条 前条の規定にかかわらず、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得しているときは、本人に注意を喚起し、上級学年への進級を認めることができる。

- (1) 1年から2年への進級を認めるときは、20単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年への進級を認めるときは、50単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年への進級を認めるときは、次に掲げる条件の一に該当していること。

ア. 仏教学部、文学部、法学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

イ. 経済学部、経営学部、経済学部第2部、経営学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が16単位以下であること。

ウ. 法学部においては、99単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

## (原 級)

第4条 修得単位数の合計が、注意進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

## 附 則

この規程は、昭和60年4月1日から施行し、昭和60年度入学生から適用する。ただし、昭和59年度以前の入学生については、昭和62年3月31日までは、なお、従前の進級基準によるものとする。

## 進 級 基 準

この基準は、駒沢大学学則第14条に基づき、上級学年に進級する場合の基準を次のように定める。

### (正規進級)

第1条 上級学年に正規進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

1. 1年から2年に進級する場合、卒業所要単位のうち、30単位以上。
2. 2年から3年に進級する場合、卒業所要単位のうち、60単位以上。
3. 3年から4年に進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

### (注意進級)

第2条 正規の進級基準には、達しないが教育的配慮から進級を認める。ただし注意進級が、再度つづく場合には、取得単位の不足から、4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

1. 1年から2年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち29～20単位までとする。
2. 2年から3年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち59～50単位までとする。
3. 3年から4年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上を取得するも、その内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が1～16単位までとする。

### 付 則

この基準は、昭和51年4月1日より施行する。

## 講義内容目次

一般教育科目	(35)
随意科目	(37)
基礎教育科目	(40)
専門教育科目	(42)
教職および資格講座	(53)



## 一般教育科目

人文分野	
宗教学 I (松本 皓一) .....	35
宗教学 I (再クラス) (奈良 康明) .....	35
宗教学 I (再クラス) (岡部 和雄) .....	35
哲学 (片桐 茂博) .....	35
論理学 (川戸 好武) .....	35
文学 (篠原 壽雄) .....	35
社会分野	
法学憲法 (松村 格) .....	36
経済学 (福原 好喜) .....	36
社会学 (角家 文雄) .....	36
自然分野	
自然科学概論 (齊藤 浩三) .....	36
人類学 (中島 寿雄) .....	36
心理学 (谷口 泰富) .....	36

## 随意科目

日本宗教文化史 (脇本 平也) .....	37
英会話 II (J.ウェルズ・J.G.ギャリソン T.J.コーガン・P.A.ベンディネリイ) .....	37
英語 LLII (T.J.コーガン・見上 晃) .....	37
ドイツ語 F (栗原 万修) .....	37
ドイツ語 FLL (初級) (松岡 晋) .....	37
ドイツ語 FLL (中級) (松本 洋子) .....	37
フランス語 F (加藤 節子) .....	37
フランス語 FLL (初級) (松岡 宏一) .....	37
フランス語 FLL (初級) (マドレーヌ・マルタン) .....	38
フランス語 FLL (中級) (マドレーヌ・マルタン) .....	38
中国語 F (刈間 文俊) .....	38
中国語 FLL (初級) (果 荃英) .....	38
中国語 FLL (中級) (羅 濛明) .....	38
スペイン語 F (佐藤 玖美子) .....	38
スペイン語 FLL (初級) (ホワン・ナバロ) .....	38
スペイン語 FLL (中級) (ホワン・ナバロ) .....	38
ロシア語 F (杉山 秀子) .....	38
ロシア語 FLL (初級) (タチャーナ・バリソヴナ・野村) .....	39
ロシア語 FLL (中級) (タチャーナ・バリソヴナ・野村) .....	39
日本語 F (初級) (留学生対象) (人塚 純子) .....	39
日本語 F (中級) (留学生対象) (杉山 秀子) .....	39

## 基礎教育科目

基礎仏教学 (伊藤 秀憲) .....	40
基礎仏教学 (皆川 広義) .....	40
基礎仏教学 (峰岸 孝哉) .....	40
仏書解説 I (新井 勝龍) .....	40
仏書解説 I (石川 力山) .....	40
仏書解説 I (石井 修道) .....	40
仏書解説 II (原田 弘道) .....	40
仏書解説 II (池田 魯参) .....	41
仏書解説 II (吉津 宜英) .....	41
仏教語解説 (永井 政之) .....	41
仏教語解説 (片山 一良) .....	41
仏教語解説 (池田 魯参) .....	41

## 専門教育科目

禅学概論 (黒丸 寛之) .....	42
禅学思想史 (峰岸 孝哉) .....	42
禅宗史 I (田中 良昭) .....	42
禅宗史 II (原田 弘道) .....	42
禅学実習 I (酒井 得元・河村 孝道 小坂 機融) .....	42
禅学実習 II (鈴木 格禅・伊藤 秀憲 永井 政之) .....	42
禅学講義 (小坂 機融) .....	43
禅学演習 I (黒丸 寛之) .....	43
禅学演習 II (河村 孝道) .....	43
宗典講読 I (新井 勝龍) .....	43
宗典講読 II (若月 正吾) .....	43
宗典講義 I (酒井 得元) .....	43
宗典講義 II (光地 英学) .....	43
日用經典 (櫻井 秀雄) .....	43
禅学特講 I (原田 弘道) .....	44
禅学特講 II (鏡島 元隆) .....	44
禅学特講 III (石井 修道) .....	44
禅特講 (椎名 宏雄) .....	44
禅学研究 (青龍 宗二) .....	44
禅籍講義 (青龍 宗二) .....	44
詩 偈 (山口 晴通) .....	44
禅美術 (竹内 尚次) .....	44
仏教概論 (山内 舜雄) .....	45
印度仏教史 (松本 史朗) .....	45
中国仏教史 (佐藤 達玄) .....	45
印度仏教文化史 (奈良 康明) .....	45
日本仏教史 (山内 舜雄) .....	45
仏教教理史 I (印度) (袴谷 憲昭) .....	45
仏教教理史 II (中国) (岡部 和雄) .....	45
印度哲学史 (田上 太秀) .....	45
經典講読 I (石川 力山) .....	46

經典講読Ⅱ (岡部 和雄) .....	46
仏典演習Ⅰ (佐藤 達玄) .....	46
仏典演習Ⅰ (吉津 宜英) .....	46
仏典演習Ⅱ (池田 魯参) .....	46
仏典演習Ⅱ (平井 俊榮) .....	46
仏典研究 (岡部 和雄) .....	46
仏教研究 (田上 太秀) .....	47
原始仏教 (片山 一良) .....	47
仏教特講Ⅰ (平川 彰) .....	47
仏教特講Ⅱ (納富 常天) .....	47
仏教特講Ⅲ (鎌田 茂雄) .....	47
仏教特講Ⅳ (太田 久紀) .....	47
仏教特講Ⅴ (石川 力山) .....	47
外国語仏書演習 (松本 史朗) .....	47
パーリ語 (初級) (福田 孝雄) .....	48
パーリ語 (上級) (福田 孝雄) .....	48
パーリ語演習 (片山 一良) .....	48
パーリ仏教特講 (片山 一良) .....	48
サンスクリット語 (初級) (奈良 康明) .....	48
サンスクリット語 (上級) (金沢 篤) .....	48
サンスクリット語演習 (金沢 篤) .....	48
チベット語 (文法) (松本 史朗) .....	48
チベット語 (講読) (袴谷 憲昭) .....	49
ラテン語特講 (佐藤 玖美子) .....	49
宗教学概論 (松本 皓一) .....	49
宗教史 (松本 皓一) .....	49
キリスト教史 (三小田 敏雄) .....	49
キリスト教概論 (金井 新二) .....	49
新宗教概説 (洗 建) .....	49
名宗綱要 (浄土学) (阿川 文正) .....	49
仏教美術 (林 良一) .....	49
仏教民俗学 (和田 謙寿) .....	50
宗教教育 (櫻井 秀雄) .....	50
教化法 (皆川 広義) .....	50
青少年教化法 (皆川 広義) .....	50
青少年問題研究 (和田 謙寿) .....	50
青少年指導演習 (和田 謙寿) .....	50
哲学概説 (斎藤 知正) .....	51
現代哲学概説 (山下 太郎) .....	51
哲学史 (中村 友太郎) .....	51
哲学演習 (斎藤 知正) .....	51
哲学史特講 (久保 陽一) .....	51
中国文学概論 (飯田 利行) .....	51
中国文学演習 (飯田 利行) .....	51
東洋思想研究 (船津 富彦) .....	51
中国哲学史 (窪 徳忠) .....	52
心理学概論 (篠原 英壽) .....	52

# 一般教育科目

## 人文分野

### 宗教学 I

松本 皓一

宗教に対する全般的理解を深め、仏教(禅)に対する基礎的学識をつちかう。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』 (世界書院)

〔参考書〕 『宗教学 I』 (更生社)

### 宗教学 I (再クラス)

奈良 康明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』 (世界書院)

『仏教のおしえ』 (東京書籍)

### 宗教学 I (再クラス)

岡部 和雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』 (世界書院)

『仏教の歩んだ道』 (東京書籍)

## 哲学

片桐 茂博

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのかわからない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならず、そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識にも努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

## 論理学

川戸 好武

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむしろのこと日常生活においても、たえず思考しているが必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解を習得をする。

〔教科書〕 『新しい認識への論理』 (公論社)

## 文学

篠原 壽雄

より知的生活を目指す人間は、書かれたもの(書物)を正しく読み味わうことが要求される。このために多くの作品に直接あたって、その読み方などを学びとることは何にもまして大切である。そこでこの講座では、これからの研究に欠くことのできない基礎教養を日ざして、中国の古典(邦人の作品も)をえらんで文学として鑑賞すると共に、その訓読法を学び、将来、漢訳仏典、禅録を研究する一助にしたい。とくにすぐれた文学作品を通して、唐宋の俗語をも学び、禅録研究にも資したい。

〔教科書〕 『典座教訓』 (大蔵出版) プリント、他は随時示す。

## 社会分野

### 法学憲法

松村 格

法についての一般理論を前期で講義する。後期には、法と道徳に結びついた具体的な問題をとりあげて講義する。例えば、法と生命という観点から、自殺と他殺の問題、墮胎や安楽死・尊厳死の問題、医療行為と臓器移植の問題を考えてみたいと思う。そのほか今日的な具体的な問題をとりあげていくつもりである。

〔教科書〕未定

### 経済学

福原好喜

経済学の基本的な考え方や基礎的な理論を講義するつもりである。日本経済や世界経済の具体的な諸問題についても関説し、学生諸君に経済学に対する知的関心を喚起出来ればと思っている。講義は分り易く行なう。

### 社会学

角家文雄

社会学の基礎理論と、その応用として教育社会学、マスコミ社会学を講義する。

〔教科書〕角家文雄著『昭和時代』(学陽書房)¥1,200

## 自然分野

### 自然科学概論

斉藤浩三

20世紀後半における大規模な工業生産と高度の経済成長を支えてきたものはエネルギー資源であるが、そのエネルギーの形態や内容は、時代によって大きく変化する。現代は、化石燃料から新エネルギーへの転換の時期にさしかかっている。新エネルギーのうちで原子力は最も主要なものであり、将来は一層その重要性が増大するので、原子力事情を展望し、また問題点と対応策について考察

する。また、新エネルギーその他の新しい分野の開発では、きわめて高度な技術が要求されるが、これらの先端技術の現状や新素材の役割などについても平易に解説する。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

### 人類学

中島寿雄

人類学の範囲はきわめて広く、短時間にその各項目を講ずるときは、表面をなでるだけの散漫なものになりがちなので、ここでは問題を「性」にしばって講ずる。性は人類学上の重要な概念であるばかりでなく、人類学のほとんど全領域をおおいうものだからである。本学の人類学は一般教育の自然科学分野に属しているので、講義も自然科学的方面に主眼をおくことは勿論だが、ヒトの本質上、社会や文化にも言及せざるをえず、むしろ身体と文化との関連を考究させることこそ、人類学一般教育の目的に副うものというべきであろう。

〔教科書〕準備中。

〔参考書〕講義中に随時指示する。

### 心理学

谷口泰富

本講においては、次のような内容について説明する。

- (1) 心理学とは何か
- (2) 環境の認知
- (3) 行動の変容
- (4) 人格の構造
- (5) その他

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』(八千代出版)

# 随 意 科 目

## 日本宗教文化史

脇 本 平 也

日本には、神道、仏教、キリスト教、民俗宗教、その他さまざまな多様な宗教が並び行われている。しかし、それらすべての宗教を通じて、いわば日本宗教とでもよぶべき共通の特色が見られるのではあるまいか。そういう問題関心を軸としながら、日本宗教文化史の流れを探ってみたい。

〔教科書〕 堀一郎編『日本の宗教』（大明堂）

## 英 会 話 Ⅱ

J.ウェルズ・J.G. キャリソン  
T.J. コーガン・P.A. ベンティネリ

全学で4クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担任名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

## 英 語 L L Ⅱ

T. J. コーガン・見上 晃

英語LLⅠのアドバンスト・コースとして全学で2クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語LLⅠを履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

担任名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

## ド イ ツ 語 F

栗 原 万 修

ドイツと日本に古くから伝えられてきた民話を、ドイツ語で読んでいく。ドイツの民話はグリム兄弟のものを主とする。そして民話を通し両国間の国民性のちがいが等についても考察していきたい。テキストはその都度、教場にて配布する（無料）。

## ドイツ語FLL（初級）

松 岡 晋

一年次のドイツ語(1G, 1R)を修得した者を対象に、ビデオテープ等の教材を用いて、基本文型を用いた日常会話の練習をおこないます。参加者について特に条件はありませんが、毎回かならず出席し、一年間でなにかを自分のものにしようという最低限度の意欲のある者の受講を希望します。

〔教科書〕 テキストはその都度プリントで配布。

## ドイツ語FLL（中級）

松 本 洋 子

一年次のドイツ語を終えた者を対象に、ビデオやテープを用いて、基本的な文型や語彙を身につけ、日常的な会話の表現力をつけていきたいと思う。

〔教科書〕 テキストはその都度配布する。

## フ ラ ン ス 語 F

加 藤 節 子

やさしいテキストを使ってフランス文学史を読む。17世紀から始めて19世紀頃までの文学とその社会背景を概観していく予定である。時間があれば19世紀の作家、ラマルチーヌ、シャトーブリアン、スタンダール、ミュッセ、ジョルジュ・サンド、バルザック、フロベール、ボードレール、ヴェルレーヌなどの作品の一部を抜粋して読めればと考えている。

〔教科書〕 プリント

## フ ラ ン ス 語 FLL（初級）

松 岡 宏 一

“Entrée Libre”を教材として用いる予定です。スライド画面とテープの音とを併用して、基礎的な表現能力を養成したいと思います。会話は、音を真似ることから始められなければならないので、積極的に授業に参加し、フランス語を聞いたり話すことに慣れるようにして下さい。また、途中であきらめることなく、一年をとおして

出席し、少しでも「フランス語」の中に入りこむことができるように、希望したいと思います。テキストは教場で配布します。

〔教科書〕『Entrée Libre 1』

### フランス語FLL (初級)

マドレーヌ・マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的な会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕『Sans frontière』leçon 1 より。

### フランス語FLL (中級)

マドレーヌ・マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕『Entrée Libre 1』

### 中国語 F

刈間文俊

中国語を二年次まで学んだものを主たる対象とし、文学作品の講読を中心としつつ、より上へのレベル向上を目的として、耳の訓練も随次取り入れていく。辞書を必ず持参すること。ここ数年の新しい作品を選び、中国語の学習を通して、中国を研究する意味などを語りあいたい。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

### 中国語FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕教場にてプリントを配布する。

### 中国語FLL (中級)

羅 漾 明

中国語FLL初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。

〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配ります。

### スペイン語 F

佐藤 玖美子

本講座は、1・2年で習得した知識をもとに、特に読解力の養成を目的とします。今年度はテキストとして、スペイン独特の諧謔に富んだ頓知話や奇想天外のおどけ話を集めた民話集を選びました。これらの民話を読みながら、笑いの中に含まれる教訓、そしてスペイン民衆の生活雰囲気やその感情、心意気などを味わってみたいと思います。

〔教科書〕プリント

### スペイン語FLL (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。

### スペイン語FLL (中級)

ホワン・ナバロ

前年度LL初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

### ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標とする。名文といわれる様々なスタイルのロシア語の文章に接することにより、ロシア語のもつメリハリのある美しさと力強さを味わっていただきたいと思う。

〔教科書〕教場にて指示します。

### ロシア語FLL（初級）

タチヤーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 教場にて指示。

### ロシア語FLL（中級）

タチヤーナ・バリーソヴナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

### 日本語F（初級）（留学生対象）

大塚純子

本講座は昭和57年度に初めて設置された留学生のための日本語の随意科目である。日常生活における意志伝達にはさほど苦労しないが、若干こみいった内容の聴きとりや説明、正しい表記・用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後に細目について詳しく説明する。授業では最新の日本語教育用のビデオやスライド等を駆使しつつ、現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

### 日本語F（中級）（留学生対象）

杉山秀子

日本語Fの初級課程を終えたもの、あるいはそれと同等の学力を有する留学生を対象とし、日本語での発表能力や、表記・表現法をさらに高め、深化させていく。授業では適時、新聞・雑誌の読みあわせや、NHKの教養番組の聴きとり、ニュース解説、日本映画等のビデオ録画をとりあげて、偏りのない日本語の総合力を身につけることをめざしたい。

——一週間に一度は必ず小テストをし、レポートの提出を義務づけるので授業はなるべく休まないこと。

〔教科書〕 教場にて指示します。

# 基礎教育科目

## 基礎仏教学

伊藤秀憲

基礎仏教学では、一仏両祖——仏教を開いた釈尊と日本曹洞宗の高祖道元禪師と太祖瑩山禪師——の生涯と思想について講義する。禅学の学習には漢文の読解力が不可欠である。基本的な文献を読みつつ講義を進めて行きたい。

〔教科書〕 プリント配布

## 基礎仏教学

皆川広義

仏教の開祖釈尊と日本曹洞宗の両祖道元禪師と瑩山禪師の生涯と教えについて学び、仏教の基礎を把握したい。とくに釈尊の根本教理をふまえて、その発展である両祖の教理を体系的に考察してゆきたい。

〔参考書〕 増谷文雄著『仏教の根本聖典』（大蔵出版）  
山折哲雄『道元』（清水書院）

## 基礎仏教学

峰岸孝哉

ここにいう「基礎仏教学」とは、「一仏両祖伝」を内容としている。つまり仏教を開いた釈尊と日本曹洞宗の開祖永平道元禪師、曹洞教団展開の礎を築かれた瑩山紹欽禪師の生涯を学ぶものである。この「一仏両祖」は曹洞宗の信仰の根源であるばかりでなく、広く人類に開かれた偉大な宗教家であるために、開説された文献も数多く存在する。そこで今日までの主な参考文献を紹介しながら、それぞれのご生涯をたどってみよう。

〔教科書〕 プリント使用

〔参考書〕 随時指示する。

## 仏書解説Ⅰ

新井勝龍

中国で生成し日本で熟成した禅の代表的典籍を、史伝、清規、禅戒等に分類しながら、年代を逐って説明してゆく。

〔教科書〕 コピーによる

〔参考書〕 『禅籍解題』（『禅家語録』）（筑摩書房）

## 仏書解説Ⅰ

石川力山

聖儀義諦の撰述した『禅籍志』2巻は、中国、日本で成立した禅宗関係の典籍を漢文で解説批評したものである。この授業は、禅宗関係典籍の解説紹介を行うものであるが、これから4年間仏教を学んでいくために必要不可欠な漢文読解力を養うこともあわせ意図して、『禅籍志』の中の主要な部分を選び出し、原文のままを読み進めながら説明を加えていく。

〔教科書〕 プリント使用

〔参考書〕 『禅家語録Ⅱ—禅籍解題—』（筑摩書房）  
『禅学大辞典』（大修館書店）

## 仏書解説Ⅰ

石井修道

仏教や禅について深い専門的な知識を学ぶにあたって、この講座は一年生が広く禅籍について知る講座である。「広」から「深」へ自主的に学べるように、その道案内をするために、沢山の禅籍について触れてみたい。漢文を読むための慣れのために聖儀義諦撰『禅籍志』二巻を中心に講義を進めて行きたい。禅籍244部について解説したこの著は、最も便利であり、2年3年と進んでもふりかえって参考になるものである。この書で不足する禅籍については補足して説明する。

一つの願いは、授業で取り挙げた禅籍を是非図書館に行き、その現物に触れてもらいたいことである。

〔教科書〕 『禅籍志』を担当者でコピーして配布する。

〔参考書〕 『禅家語録Ⅱ』（筑摩書房）、『禅語録』（世界の名著・続・3）（中央公論社）、『禅学大辞典』（大修館書店）

## 仏書解説Ⅱ

原田弘道

印度・中国・日本における各種仏教典籍の中から、代表的なものを選び、それぞれの経典の占める位置・特色

・影響などについて解説し、全体的、体系的な理解を目指す。

〔教科書〕『仏典解題事典』（春秋社）¥3,800

## 仏書解説Ⅱ

池田魯参

インド・中国・朝鮮・日本・チベットなどの諸仏教の研究に必要な典籍資料をとりあげ、各経典が仏教研究のどのような領域に関わり、どのような課題があるかを明らかにする。すなわち、ブツダの覚悟の内容や教団運営について記す主要な経・律・論蔵のなかから、主要なものをとりあげ、成立状況や内容・伝播・影響などの観点から、諸経典相互の関係をなどを体系的に把握し、仏教研究の基礎的な資料の扱い方を修得して頂く。

〔教科書〕『仏典解題事典』（春秋社）

## 仏書解説Ⅱ

吉津宜英

仏教はキリスト教やイスラム教と異なり、天啓の宗教ではない。すなわち、経典は人間釈尊の言行に由来するのであり、論書はボサツたちの自己主張の産物であって、どこまでもそれらが絶対化されてはならない。しかしながら、これらの仏教文献に対する正しい認識なくして、はたして我々は社会に向って責任ある言行を示しうであろうか。この講義は明らかな禅宗文献以外の仏書をすべて視野に入れなければならない。四部、五ニカーヤ、三蔵、大乘経典、大乘論書、チベット文献、漢訳大蔵経、偽経、中国諸宗の典籍、禅語録と仏典、日本仏教諸宗の典籍、そして欧米語への仏典の翻訳という順序で講義を進めたい。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕『仏典解題事典』（春秋社）

## 仏教語解説

永井政之

宋の道誠による『釈氏要覧』を読む。本書は、二七章より成る。いずれも初歩的な仏教用語を、典拠をふまえて略述したもので、いわば中国僧の手になる仏教辞典である。大正蔵経54巻に収録され、国訳もあるので比較的読み易い。仏教用語の理解と、あわせて漢文読解の力を養う。

〔教科書〕原典についてはコピーを配布する。

〔参考書〕宇井伯寿『仏教辞典』（大東出版）¥3,800

水野弘元『仏教要語の基礎知識』¥1,500

## 仏教語解説

片山一良

言葉が難しいという場合、一般的に言えば、こちらが無知であるか、或いは意味が深いかである。仏教語は往々にして内容が濃い。仏教の平易な、しかも今日的な理解を目指し、卑近な例を示しつつ、広い角度からその重要語を解説する。

〔参考書〕水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

## 仏教語解説

池田魯参

仏教語は、日常語としても、檀那樣、精進料理、阿弥陀くじ、阿修羅、縁起物などのように使われている。

本講では、これらの仏教語が派生したブツダの教えの原形に帰り、仏教の教理体系がどのような構造のものであったかを考える。

これから仏教教学を広く深く究めるために必要な、基礎的な用語ないし専門用語を自在に修得していただくことを目指す。

〔教科書〕水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

# 専 門 教 育 科 目

## 禅学概論

黒丸寛之

釈尊の成正覚を起源として、インド・中国・日本に展開した禅仏教の歴史と思想、戒律と文化、および禅仏教の現代的意義（心と身体・自然と存在・社会と生活などに関する禅の見解）について講述する。

## 禅学思想史

峰岸孝哉

禅学をどう規定するかは今日難しい。ここでは永平道元（1200～53）を開祖とする日本曹洞宗の教学・思想の意味に解し、この教学史を内容とするものとする。曹洞宗は室町中期より後期にかけてほぼ全国的に進出した。これは地頭・国人といった在地の有力武士の外護を獲得したためで、さらに近世にかけては、ここを本寺とする末寺を村落に構えることに成功して、今日の教団の上台が確立されたと考えられる。教学は一面、保守的・伝統的であるが、また教団の歴史的・社会的条件の反映を受けてきていることも事実である。授業では、各時代での代表的事例を選び、その思想と行動とを分析し、位置づける作業を通して、その歴史的な性格も考える。

〔参考書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕（春秋社）  
鈴木泰山『禅宗の地方発展』（吉川弘文館）

## 禅宗史Ⅰ

田中良昭

禅宗史Ⅰは、中国禅宗史をその内容とする。釈尊以来仏教の実践道とされた禅が中国へ伝来し、菩提達摩を初祖とする系統が、中国固有の思想や他の仏教諸宗と交渉しつつ、独自の中国禅宗を形成し、後には中国仏教の主流を占めるまでに発展した。そこで授業では、達摩渡来以前を導入とし、以下達摩の渡来から禅宗の成立までの成立の歴史と、禅宗が五家七宗に分かれて各々その特色を発揮する発展の歴史とを考察する。

〔参考書〕講座禅第三巻『禅の歴史——中国』（筑摩書房）

## 禅宗史Ⅱ

原田弘道

禅宗史Ⅱの内容は日本禅宗史である。

我国に伝来した禅は、その主流となって類型を異にするものが五つあったと考えられる。これらを中心にして禅宗の発展の歴史を考察する。内容は伝来、受容・発展の実態とその思想史的意義の両面からとりあげてゆく。

〔参考書〕講座禅第四巻『禅の歴史——日本』

（筑摩書房）

鈴木泰山『禅宗の地方発展』（吉川弘文館）

## 禅学実習Ⅰ

酒井得元・河村孝道  
小坂機融

禅学は坐禅を根本とする宗教の学問的作業である。しかし学究のみではあくまでも万全ではない。究極はむしろ禅学の根本を実修する坐禅にこそ求められなければならない。禅学する者に坐禅が常に厳しく実修されないなら真の禅学とは言えない。従って本講座は坐禅堂における入堂・坐禅・経行・提唱・出堂の一切が厳粛に遂行されるが、このためには次の基本的心構えが必要である。

1. 時間厳守（始鈴十分前に全員入堂坐禅、遅刻不許）
2. 威儀服装の整備（規定の作法に従い厳粛かつ清楚）
3. 懈怠厳禁（自ら怠惰を戒め毎時間真摯に精励する）

なお、(1)追再試等による救済措置は全くない。(2)特に新学期最初の授業は、坐禅堂における進退作法並びに席次等重要事項を指示するので必ず出席すること。

〔教科書〕『普勸坐禅儀』『正法眼蔵坐禅儀』『経行軌』等配布。

## 禅学実習Ⅱ

鈴木格禅・伊藤秀憲  
永井政之

一講時を二分し、前半は専ら只管打坐、経行を挿んで後半を『坐禅用心記』の提唱にあてる。授業の実施要領および基本的心構え等については、「禅学実習Ⅰ」に全く同じ。

講本は全員同じものを使用することが望ましいので、下記の要領にしたがってほしい。

遅刻を認めず、追再試あるいはレポート提出等による

救済措置は一切講じられないから、このことを予めよく承知しておくこと。

〔教科書〕『曹洞宗全書』宗源(下)。423頁～427頁までをコピーし、厚目の表紙をつけ、指示にしたがって、学科学年・単番号・氏名を、大きく明記すること。

## 禅学講義

小坂機融

中国禅宗成立初期の語録中、禅旨を詩文によって表説した『参同契』・『宝鏡三昧』・『証道歌』について順次講義する。まずこれら語録の成立流伝の歴史的背景を考察し、その上で当該語録について講じ、各祖師の挙揚した宗義宗風を明らかにする。今年度は、『参同契』・『宝鏡三昧』を中心にして講義する。

〔教科書〕『参同契宝鏡三昧纂解』（教場で指示）。

〔参考書〕『曹洞禅講義』、『禅の語録16』、『講座禅第六巻』。

## 禅学演習 I

黒丸寛之

『碧巖録』・『従容録』・『無門関』を講読演習して、禅仏教の本質と中国禅の特色、および各祖師の行履などについて学ぶ。講本は、開講のときに指定する。

## 禅学演習 II

河村孝道

『永平語録』・『洞山録』・『臨濟録』の祖録を一年ずつ講読演習してゆくもので、演習を通して祖録参究の視点と禅語への慣熟、および各祖師の人格とその宗風の把握とを主目的とする。

〔教科書〕教場で指示する。

## 宗典講読 I

新井勝龍

道元禅師親撰『学道用心集』を講読する。正法眼蔵が本証妙修の本証面に比重があるとすれば、学道用心集は妙修面に強調点があり、全篇を修行の心得として十章に分け組織的に示されたものである。

従って小篇ではあるが、日本曹洞宗の学道の枢要が述べられている。また説示が簡明であるため、古くから曹洞禅入門のテキストとして用いられてきた。本学で禅学科の必修最初の講座におかれているのも、この伝統をう

けているからである。

講読に際しては、始めに史的ないし書誌的に本書の位置づけをし、ついで思想的に道元禅師の根本思想である一方究尽・本証妙修の道理をほりさげてゆきたい。

〔教科書〕プリント

〔参考書〕岸沢惟安老師提唱『学道用心集講義』増永靈風『学道の用心』

## 宗典講読 II

若月正吾

前段においては、中国における清規の歴史とその概要を講述し、さらに道元禅師の清規の特異性を明らかにする。後段においては、テキスト『永平元禅師清規』を使用して『典座教訓』・『衆寮清規』について講義する。

〔教科書〕『永平元禅師清規』教場で指示する。

## 宗典講義 I

酒井得元

この講座では道元禅師の主著である正法眼蔵を講義する。本年度は、その中の「洗面」「陀羅尼心」「三界唯心」「説心説性」の巻を講ずる予定である。使用テキストは当方で用意があるので配布する。しかし本学生は必ず正法眼蔵の全巻の所持が望ましい。それには次の諸本が出版されている。

〔教科書・参考書〕『本山版 正法眼蔵』（鴻盟社）、『道元禅師全集上巻』（筑摩書房）、『道元・日本思想大系上下』（岩波書店）。

## 宗典講義 II

光地英学

伝光録の撰者と云うべき太祖瑩山禅師の生涯、伝光録の書誌学的考察、伝光録の中心思想と組織を講じ、次に伝光録各章をテキストに従って講述する。

〔教科書〕光地教授『冠註瑩山禅師伝光録』（駒沢書店）¥3,300

〔参考書〕『瑩山禅 伝光録講解』（山喜房仏書林）1冊 ¥7,500（但、全4冊中、61年3月迄の出版は2冊のみ）

## 日用経典

櫻井秀雄

曹洞宗常用経典・祖典の解題、および回向文と各種疏などに表われる文意の解明を通して、実践宗学の実際を究明する。

〔教科書〕 桜井秀雄『曹洞宗回向文講義』¥700  
『続曹洞宗回向文講義』¥700

### 禅学特講Ⅰ

原田弘道

#### 禅宗と公案

公案は禅宗における経典観と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

### 禅学特講Ⅱ

鏡島元隆

#### 宗学思想史——近世を中心として——

江戸時代における宗学を嗣法論、禅戒論、清規論に分けて、各分野における思想の展開を述べる。

〔参考書〕『道元禅師とその門流』（誠信書房）

### 禅学特講Ⅲ

石井修道

本年度は唐代禅の語録を読むことにしたい。今世紀初頭に発見された『祖堂集』は、唐代禅の研究に欠かすことのできない文献である。昨年度の中国曹洞宗の祖師の行状を踏まえて、雲岩・洞山・雲居・曹山の章を中心に『祖堂集』の一端に触れることにしたい。

〔教科書〕『祖堂集』（中文出版社）¥3,800

〔参考書〕柳田聖山著『禅語録』（中央公論社）¥980

### 禅特講

椎名宏雄

#### 中世臨濟禅カナ法語の講読

本年は、わが国の臨濟禅を定着させた聖一国師蘭溪道隆・大応国師南浦紹明・大灯国師宗峰妙超のカナ法語を読む。この三名の禅匠たちに、語録と並んでこの種の作品が残されているのは、決して偶然ではない。漢文語録にくらべて、より具体的に思想性に富むカナ法語において、彼等はいったい深い禅思想を、道俗たちにどう平明に説示しているのだろうか。これを味わってみよう。

〔教科書〕プリント資料を配布する。

### 禅学研究

青龍宗二

この講座は修証論を中心として、禅戒・清規思想を考究してゆくが、特に修証論は宗学上における根本の主要課題であるため、修証論の諸問題を検討してその特異性を明確にすると共に、現代的意義をも明らかにする。講義内容は修証論、禅戒論、清規論の順序で進める。

### 禅籍講義

青龍宗二

今年度より禅学講義Ⅱを名称変更して禅籍講義（4単位）としたが、従来通り中国禅籍を取り扱う。特にこの講義は宗学の立場から、六祖壇經および南嶽下の禅語録を中心として、その原意を把握しながら道元禅との異同を明らかにしてゆく。

〔教科書〕教場で指示する。

### 詩 偈

山口晴通

「詩禅一如」の観点に立脚して、テキストを中心に、できるだけ多くの漢詩を読み、かつ、初歩的な「漢詩の作り方」を学習する。本講座を履修する者は、『漢和辞典』を必要とする。その種類については、授業中に指示説明をする。

〔教科書〕山口晴通著『詩偈入門』（上）（曹洞宗宗務庁）¥1,000

〔参考書〕『漢和辞典』

### 禅美術

竹内尚次

禅林美術の本質と虚像とは、紙一重の差である。その本質を探ることは難しいが不可能ではない。そこに在る高貴な精神性、つまり詩心を見て取ることである。

東洋美術としての日本美術の大半は仏教芸術で占められる。その歴史上の展開は、古代仏教美術・法隆寺金堂壁面を中心とする一群、平安時代の密教美術・両界曼荼羅、浄土教美術・鳳凰堂板絵、宮廷美術絵巻などがある。

これに次いで、禅宗東渡による哲学性の深い禅林美術が鎌倉室町時代に展開する。私たちは、心の中心に禅林美術をおいて、他のジャンルを対比し乍ら、その中に内在するものを参尋したいと思います。欲を云えば、古美術作品の取扱いなどの実習を別な時間で行いたい。

〔教科書〕『近世禅林美術』竹内尚次著（全文堂）

〔参考書〕 竹内尚次著『群馬の思想(風外)』(あさお社), 玉村竹二著『夢窓国師』(平楽寺書店)

## 仏教概論

山内舜雄

先づ仏陀観・仏身論の発達・形成という仏教の基本構造を詳説し、次いで各宗の教義を、概ね歴史的展開に沿って詳述する。すべてノート講義とし、教科書を使用しない。

## 印度仏教史

松本史朗

インド仏教の通史を教団史・思想史の観点から概説しさらに個々の思想的問題について考察する。

〔教科書〕『仏教史概説』(平楽寺書店)

〔参考書〕 平川 彰『インド仏教史』〔上・下〕(春秋社), 奈良康明『仏教史Ⅰ』(山川出版社)

## 中国仏教史

佐藤達玄

仏教の中国的展開の中で、儒・仏・道三教の交渉を中心に、どのようにして仏教が民衆の心に定着していったかを、教団史、思想史の観点から考究する。

〔教科書〕『仏教史概説・中国篇』(平楽寺書店)

## 印度仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑われない。そうした高いレヴェルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レヴェルの生活様式を考察し、且つ、両レヴェルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではない。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかがわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕 辛島昇編『インド入門』(東大出版会)

奈良康明『仏教史Ⅰーインド、東南アジア一』(山川出版社)

## 日本仏教史

山内舜雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった。中世は中古天台本覚法門を詳説する。

〔教科書〕 宇井伯寿著『日本仏教概史』(岩波書店)  
は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

## 仏教教理史Ⅰ(印度)

袴谷憲昭

仏教教理史とは、「無常」という批判精神に発した仏教が、それを「常」の哲学に引き下そうとする動きと断えず戦ってきた歴史とも見ることが出来る。しかし、代表的仏教国である日本においてさえ、「無常」の批判精神は「常」の哲学によって覆い隠されているといっても過言ではない。この「常」の哲学を払拭すべく、インドにおける仏教教理の展開を跡付けてみたい、というのが本講義の基本的意図である。かかる意図のもとに、下記の教科書に即して講義を進めていく。

〔教科書〕『宗教学Ⅰ』(更生社)

## 仏教教理史Ⅱ(中国)

岡部和雄

インド仏教がどのようにして中国仏教へと展開していくかは、さまざまな観点から分析・研究されなければならないが、ここでは教理の歴史的展開を中心としてこの問題を考えてみたい。

〔参考書〕 鎌田茂雄『中国仏教史』第一巻～第三巻  
(東大出版会)

## 印度哲学史

田上太秀

インダス文明から説き起し、ヴェーダ文献にみられるインド古代思想を概観し、仏教興起時代の社会的背景と仏教との関わりを見、さらに六派哲学を仏教と関連づけながら、説明することにした。

〔教科書〕 中村 元著『ヒンズー教史』(山川出版社)

〔参考書〕 J・ゴンダ著、鏗 淳訳『インド思想史』(富山房)

## 経典講読Ⅰ

石川力山

『般若心経』『梵網経』を講読する。

『般若心経』は、本文わずか262文字よりなる短い経典であるが、仏教の核心である空の思想が極めて簡潔かつ端的に示されており、禪宗に限らず、天台・真言その他の宗派で読誦、研究されてきた。本格的な経典の講読に先立ってまずこの『般若心経』を通読解説する。

『梵網経』は、大乘の戒律である菩薩戒を説く経典で中国で成立したものであるが、中国・日本で重視され、特に日本では最澄以後、ほとんどの宗派がこの『梵網経』に依拠してきた。教科書には詳しい解釈を掲載しているので、大乘戒としての意義を中心に講読する。

〔教科書〕 『般若心経』（プリント使用）、『訳註梵網経』（実費1,000円）

〔参考書〕 『般若心経・金剛経』（岩波文庫）、『梵網経』（大蔵出版）

## 経典講読Ⅱ

岡部和雄

大乘経典とくに初期に成立した般若、維摩、法華などの諸経には大乘思想が横溢している。この経典講読Ⅱではそれら的大乗諸経から適切なパッセージをとりだし、講読する。大乘仏教がそれ以前の仏教とどのように相違するか、何をどう受けついで発達させたかを考える。

漢訳を中心とするが、梵文やチベット訳についても必要があれば言及する。

〔教科書〕 テキストはその都度、配布する。

## 仏典演習Ⅰ

佐藤達玄

諦観の「天台四教儀」を講読して、智顛の仏教理解の方法論を考究する。

〔教科書〕 山喜房刊『昭和校訂 天台四教儀』関口真大校訂

## 仏典演習Ⅰ

吉津宜英

この科目は仏典の中でも基礎的なものを取り上げることになっているので、今年は俱舎論を取り上げたい。世親の俱舎論は大部な著作であるから、私が大切だと考える要文をピックアップし、プリントし、テキストとした。俱舎論は界、根、世間、業、随眠、賢聖、定、智、

そして破我の九つの章から成っている。これらによって世親は我々がどのような存在であり、どのように迷い、どのような理想に、どのように到達し、最後に、仏教以外の思想をいかに扱うか、などを示したのである。このような仏教を大乘の立場から小乗と批判することは容易であるが、今の我々はこの仏教の問題点とともに、その良さも認識しなくてはならないと思う。

〔教科書〕 『プリント』

〔参考書〕 教場で指示する。

## 仏典演習Ⅱ

池田魯参

『大乘起信論』を講読する。本書は、救済の根拠を自性清淨心として示し、迷いの現実と悟りの目標の二元に分けて簡明に説明する。

本書の成立については、中国撰述説があるほどで、漢字文化圏に与えた本書の影響は実に多大なものがある。末注書も、慧遠・元暁・法蔵の三疏を代表として、二百数十種を数えている。

講読にあたっては、できるだけ異説に注意をはらい、文章表現に現われる本書の教学思想の特質を把握してみたい。

〔教科書〕 平川彰『大乘起信論』（大蔵出版社）¥2,500

## 仏典演習Ⅱ

平井俊榮

『三論玄義』の講読。本書は、隋の喜祥大師吉蔵（549～623）が、『中論』『百論』『十二門論』の三論の玄意を平易に解説したもので、空観仏教の立場で書かれた仏教概論とでもいうべきものである。

本書は大きく「破邪」と「顕正」の二門に分かれているが、本演習では、後者について「三論」の趣旨を理解することを目標にしたい。

〔教科書〕 大正大蔵経第45巻、1～14頁、各自コピーのこと。

〔参考書〕 三枝充應『三論玄義』（大蔵出版）

## 仏典研究

岡部和雄

漢訳仏典の翻訳・流伝についても研究すべき種々の問題が存する。中国・日本をはじめとする漢訳仏教圏は、漢文で記された仏典を中心に展開してきた。その意味でも漢訳仏典の成立史に関する知識は重要である。経録の使い方、訳語訳文の時代的変遷、訳経三蔵の伝記などについて平易な解説を施したい。敦煌出土仏典の価値につ

いてもふれるつもりである。必要な資料のコピーはその都度、配布する。

## 仏教研究

田上太秀

『正法念処経』を講読する。本経は小乗仏教に属する文献であるが、内容は六道思想を叙述し、仏教の宇宙観・人生観を現実生活を通して述べているものである。地獄や天上に生まれる輪廻転生はどのような業に支配されるのかという具体的例を挙げて、因果業報を説く興味深い文献である。

〔教科書〕 大正蔵経、あるいは国訳一切経をリコピーしたもの。

## 原始仏教

片山一良

仏教のルーツを原始仏教と呼ぶ。インドから中国、日本などへと伝わった大乘仏教、スリランカ、ビルマ、タイなどに伝わった上座部（俗にいう小乗）仏教、これらはすべて釈尊時代の仏教に端を発している。その基本的かつ重要な教理、学説を紹介しつつ、初期仏教の本質を考究する。

〔参考書〕 水野弘元『原始仏教』（平楽寺書店）  
中村元『原始仏教の成立』（春秋社）  
平川彰『原始仏教の研究』（春秋社）

## 仏教特講 I

平川 彰

インド・中国・日本の仏教の歴史と教理の展開を講義する。テキストに八宗綱要を使用し、各宗の教理の説明に重点をおいて講義をおこなう。

〔教科書〕 竜谷大学編『講本八宗綱要鈔』（永田文昌堂）

## 仏教特講 II

納富常天

『三国伝燈記』や『三国仏法伝通縁起』などにより、日本仏教の成立や展開を考察する。

## 仏教特講 III

鎌田茂雄

華嚴教学を講義する。天台教学と並んでもっとも難解な華嚴教学は直接講義をきかないと理解できないものである。

〔教科書〕 鎌田茂雄著『華嚴五教章』（大蔵出版）  
¥3,000  
鎌田茂雄『華嚴の思想』（講談社）  
¥1,600

## 仏教特講 IV

太田久紀

成唯識論 卷一、二、三巻 講読。

阿頼那識説を学ぶ。

〔教科書〕『選註成唯識論』を使用するが、その他何でも可。

## 仏教特講 V

石川力山

日本曹洞宗は近世初頭に至るまでにはほぼ日本全域に教線を伸展させたが、これを可能にした一の要因は、禅僧達による民間信仰や在地の習俗に対する接近と摂取にあった。一方徳川幕府は体制維持という目的から、被差別部落を行政的に固定化する政策を進め、仏教界もこの体制維持の役目を果たすことになり、差別戒名・差別過去帳等に見られる種々の差別的事象を生み出し、曹洞宗も上記の歴史的事情もあって必然的にこうした問題ともかかわることになった。今日の同和問題もその延長線上にある。この授業では広く「差別」という問題を、教団史や寺院の機能さらには中世の触穢観もふまえて考え、あわせて同和問題の基本的理解についても触れたい。

〔教科書〕 適宜配布する。

## 外国語仏書演習

松本史朗

Th.Stcherbatsky: Buddhist Logic Vol.1, Introduction (pp.1~58) をテキストとして用いる。著者はロシアの世界的な仏教学者である。同書は、現在学界において盛んに行われている仏教論理学研究の先駆的作品であり、古典的名著とも言うものである。

パーリ語 (初級)

福田 孝雄

パーリ語初級文法を、下記のテキストにより学習する。なお、後期ではJātakaその他パーリテキスト中より適切な部分を取り出し、講読する。

〔教科書〕 An Elementary Grammar of the Pāli Language (by K.Higashimoto) ¥1,800

〔参考書〕 水野弘元『パーリ語文法』

パーリ語 (上級)

福田 孝雄

Na jaccā brāhmaṇo hoti, na jaccā hoti abrahmaṇo, kammanā brāhmaṇo hoti, kammanā hoti abrahmaṇo. (Sn. 650)

〔生まれによりてパラモンにあらず。生まれによりて非パラモンにあらず。行為によりてパラモンなり。行為によりて非パラモンなり。〕  
〔注〕 「brāhmaṇa」はこの場合、真の賢者、宗教者を指す。

真に含蓄のあるブツダの言葉である。我々はブツダの言葉や原始仏教の精神に謙虚に耳を傾けながら、パーリのテキストを読んで行きたい。前期には下記のテキストを用いるが、後期ではパーリテキストの中から、必要に応じて適当な箇所を選んでコピーし、講読する。

〔教科書〕 A Pāli Reader with notes and glossary (by Dines Andersen) ¥2,300

パーリ語演習

片山 一良

前半は律 (Vinaya) より、後半は論 (Abhidhamma) より一篇を選んで読む。パーリ語の読解力を養うと同時に初期仏教の基本的術語の習得を目指したい。

テキストは、プリント (コピー) にて配布。

パーリ仏教特講

片山 一良

パーリ仏教とは、原始仏教から今日のテーラヴァーダ (南方上座部) 仏教にいたる「パーリ語聖典に基づく仏教」をいう。その基本的性格は何か? 本講はこれを教義 (テキスト)、実践 (コンテキスト) の両面から探ろうとするものである。特に従来の文献学に新しい人類学的方法論を導入した、いわば“仏教人類学”の立場からア

プローチしたい。本年度も昨年に続いて「スリランカの仏教」について講ずる。

〔参考書〕 R.Gombrich: Precept & Practice 1971 (Oxford U.P.)

サンスクリット語 (初級)

奈良 康明

サンスクリット語の文法を学習し、簡単なテキストが読めるようになることを目的とする。

〔教科書〕 J.ゴンダ・錠淳『サンスクリット語初等文法』 (春秋社)

〔参考書〕 辻道四郎『サンスクリット文法』 (岩波書店)

サンスクリット語 (上級)

金 沢 篤

サンスクリット語 (初級) 文法に一通り親しんだ者を対象とする。平明なサンスクリット語文献を実地に読むことを通じて、文法の基本的事項を確認し、実際的な読解力を養う。下記の教科書には、比較的安価なインド版も存するが、随時コピーしたものを用いるもよく、必ずしも購入する必要はない。

〔教科書〕 C.R.Lanman, A Sanskrit Reader. (Harvard Univ.Press)

〔参考書〕 『サンスクリット文法』 (岩波書店) ¥1,700円

サンスクリット語演習

金 沢 篤

サンスクリット語 (初級) を履修したばかりの者にも講読可能なものとして、教科書には下記のものを用いる。先ずは、外教者の眼より「仏教の組織」を概観・批評した第2章「仏教章」 (Baudha-darsana) を読むが、それは同時にサンスクリット語原典による「印度仏教思想入門」ともなる。なお、受講者からの要請によっては時に、テキストを変更することがある。

〔教科書〕 マーダヴァ著『全哲学綱要』 (Madhava, Sarvadarsana samgraha)

チベット語 (文法)

松本 史朗

チベット語は、インド仏教・チベット仏教の研究を志す者にとって必須の語学である。本科目は、チベット語 (文語) の文法を下記の教科書を用いて教授するが、教

科書は未刊につつき、コピーを使用するので、受講希望者は開講初日に必ず出席すること。

〔教科書〕 山口瑞鳳『チベット語文法』

### チベット語（講読）

袴 谷 憲 昭

チベット語の文法を習得したものか、もしくは本年度それを併修しようとする者を対象にチベット語文献を講読する。講読にあたっては、諸種のチベット文献に慣れらうべく、仏教文献を中心に選文集を作成し、それを逐次講読していく。

〔教科書〕 コピーにて作成配布。

### ラテン語特講

佐 藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕 『詳解ラテン文法』（研究社）

### 宗 教 学 概 論

松 本 皓 一

社会・文化現象としての宗教が人間生活にとって如何なる意味があるのか、という問いを講義の中心課題とする。人間学として「宗教」を考えてみたいと思う。

〔参考書〕 講義中随時指示する。

### 宗 教 史

松 本 皓 一

比較宗教の視点から世界の主要宗教の特色を明らかにし、諸宗教間の交流や、その歴史的展開過程を、社会・風土・民族などとの関連において考えてみる。

〔教科書〕 『世界の宗教』 大明堂

### キリスト教史

三小田 敏 雄

原始キリスト教から現代までのキリスト教を概説する。西洋史の講義と重複する部分は省略して、各時代のキリスト教の特色と問題点を明確にしてみたい。教科書および参考書は開講時に指示する。

### キリスト教概論

金 井 新 二

近代キリスト教思想史を扱う。内容的には、宗教改革から現代にいたるまでの、西欧近代社会およびその思想とキリスト教との関係（相互依存の、また相互批判的）を歴史的に概説する。

〔参考書〕 講義で指示。

### 新 宗 教 概 説

洗 建

前半は現代日本の新宗教の教義的・組織的特長や意義また新宗教の歴史などを概観し、後半は主要な新宗教について紹介する。

〔参考書〕 堀一郎編『日本の宗教』（大明堂）¥2,000

### 各 宗 綱 要（浄土学）

阿 川 文 正

先づ浄土宗所依の經典論釈、教相判釈を述べることによって浄土教の流れを把握し、浄土宗の教義の基本となる安心（心）・起行（行）・作業（業）を概説、さらに本願、阿弥陀仏（仏身論）、極楽浄土（仏土論）について講述する。

〔教科書〕 阿川貫達著『浄土宗義概説』（浄土宗務庁発行）¥500

### 仏 教 美 術

林 良 一

インドにおける古代初期よりガンダーラ期の仏像成立にいたるまでの展開および仏教美術の図像学について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、現地撮影のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔教科書〕 林良一著『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社）¥2,200

## 仏教民俗学

和田謙寿

集会や通夜。法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言える。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展』（仏教民俗研究会）¥2,900

## 宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』1985・10（鈴木出版）¥5,800

## 教化法

皆川広義

仏教における伝道法について、理論と実践との二面より概説したい。この場合、伝道とは教えを宣布する布教活動と、その教えにより対機を育成する教化活動を意味する。

理論面からは、教義、対機、伝道者及び伝道法の三点より、現代における仏教伝道のあり方をさぐる。

実践面からは、教えの宣布を中心とした布教活動と、教えにより教化育成する教化活動に分けて現場における実践として具体的に考察する。

希望するものには実習を行う。

## 青少年教化法

皆川広義

仏教における青少年教化活動について概説し、次に、対機論と集団教化及び個人教化法を特にとりあげて詳説したい。

対機論では、近代の諸科学の人間研究や仏教の人間観などをふまえて、幼児、少年、青年と身心の発達にそいながら特色及び行動などをさぐり、教化のあり方を求める。

集団教化法では、仏教青年会、禪の合宿研修（禪の集い・禪の家）スカウト・日校・子ども会などを、個人教化法では、人生相談・信仰誘引法など具体的に考察する。

希望するものには実習を行う。

## 青少年問題研究

和田謙寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際の面からの考察が必要である。今年には特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者を見つめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕 和田謙寿著『少年補導の研究』（全防連）¥1,200

## 青少年指導演習

和田謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人々には是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと思つて心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

## 哲学概説

斎藤 知正

哲学は本来、人間の生の根源的自覚を旨とする学として外に対象に向うよりも、内に反省する主観の自覚であることを本質とする学問である。本講は外延的な概観よりも、内包的に全体に通ずる本質への反省に主眼を置いて話を進める。

〔教科書〕 その都度指示する。  
〔参考書〕

## 現代哲学概説

山下 太郎

西洋現代哲学の代表の一つは実存哲学である。その流れを解説し、とくにキルケゴール、ニーチェ、ハイデガー、ヤスパースの思想を中心として講義し、実存哲学における新しい人生観および世界観、社会観を明らかにしかねて宗教とのかかわりをも問題にしたい。実存哲学の背景としての近代思想の流れをも辿る意味で、テキストは山下著『実存哲学への道』を使用し、それに沿って説明する。

〔教科書〕 山下太郎著『実存哲学への道』（公論社）

## 哲学史

中村 友太郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期には、その背景となるギリシア哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕 教場で指示する。  
〔参考書〕 その都度指示する。

## 哲学演習

斎藤 知正

前年に引継いでJohn Macquarrieの近著“*In Search of Humanity*”（1982）をテキストにして演習を行う。J. MacquarrieはOxford大学教授で、著名な神学者であるが、広く諸哲学思想から、さらに生物学・心理学・社会学等の近代諸科学をも包括する広範な視野とバランスのとれた感覚をもって、人間性の究明にとりくんでい

る。

〔教科書〕 コピーを配布する。  
学年の最初の授業時間に受講生を決定する。以後は受付けない。（コピー作成の都合による）

## 哲学史特講

久保 陽一

カント・ヤコービ・ヘルダー、シュライエルマッヒャー・ヘーゲル等の宗教論を取りあげ、18世紀末から19世紀はじめにかけての、啓蒙主義からロマン主義への移りゆきを検討する。

〔参考書〕 ヘーゲル『信仰と知』（公論社）  
ペゲラーヤメ編『ヘーゲル・ヘルダーリンとその仲間』（公論社）その他はそのつど挙げる。

## 中国文学概論

飯田 利行

国語科教師として、その任を全うするように配慮して、小学（文字・音韻・訓詁）の基礎知識と、特に日本文学と中国文学とのかかわりある事項・作品を強調して講ずる。

〔教科書〕 飯田利行著『中国文学概論』中国・日本文学研究会発行 頒価¥2,000

## 中国文学演習

飯田 利行

二十一世紀をリードするにたる仏者の一人に良寛和尚が挙げられている。その良寛詩集を縦横に講釈し、また学生に意見を発表させて真価を確認させる。

〔教科書〕 飯田利行訳著『良寛詩集譯』（大法輪閣）  
定価 ¥3,000

## 東洋思想研究

船津 富彦

広大なる中国の自然の中で、中国人が独自に創作した思想について概説し、そのよる可きテキストや著者の略伝を紹介し、それらが後世どのように受容され、変化して来たか、又、日本の文化にどのような影響を与えたかについて、彼等の代表的な文を読みつつ、考えてみたい。

## 中国哲学史

窪 徳 忠

中国における道仏2教の交渉に重点をおいて、道教史の講義を行なう。ただし、道教についての理解を深める意味から、最初に道教について、ごく簡単に紹介する予定である。

〔参考書〕 窪『道教史』（山川出版社）¥1,900  
同『道教の神々』（平河出版社）  
¥2,500

## 心理学概論

篠 原 英 壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版）

## 教 職 お よ び 資 格 講 座

教 職 課 程  
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座  
博 物 館 学 講 座  
社 会 福 祉 主 事 講 座  
社 会 教 育 主 事 講 座

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において  
受講出来る課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課  
程・資格講座の履修要項」を参照）

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	文 学 部 ・ 仏 教 学 部
社 会 福 祉 主 事 講 座	全 学 部 （ 59 年 度 入 学 生 より 適 用 ）
社 会 教 育 主 事 講 座	文 学 部 ・ 経 済 学 部 ・ 法 学 部 ・ 経 営 学 部



## 目

## 次

教育原理(磯野 昌蔵) .....	1	政治学原論(上野 末夫) .....	7
教育原理(上岡 安彦) .....	1	民法 I (山崎 敏彦) .....	7
教育原理(村山 輝吉) .....	1	哲学特講 I (東洋) (篠原 壽雄) .....	7
教育原理(坂本 信昭) .....	1	哲学特講 II (西洋) (國嶋 一則) .....	7
教育原理(北村 三子) .....	1	宗教学特講 I (松田 文雄) .....	7
青年心理学(大浜 幾久子) .....	1	宗教学特講 II (脇本 平也) .....	8
青年心理学(藤崎 春代) .....	1	宗教学特講 III (洗 建) .....	8
青年心理学(牟田 悦子) .....	1	教育史(磯野 昌蔵) .....	8
青年心理学(渡辺 三和子) .....	2	宗教教育(櫻井 秀雄) .....	8
教育心理学(大浜 幾久子) .....	2	教育関係法規(船木 正文) .....	8
教育心理学(藤崎 春代) .....	2	図書館学 I (山崎 慶子) .....	8
教育心理学(中村 均) .....	2	図書館学 II (源 昌久) .....	8
教育心理学(荻野 美佐子) .....	2	博物館学 I (倉田 芳郎) .....	8
教育心理学(渡辺 三和子) .....	2	博物館学 II (熊野 正也) .....	9
道德教育の研究(坂本 信昭) .....	2	博物館実習 I (館務) (倉田芳郎・清水潤三) ..	9
教育実習(磯野 昌蔵) .....	2	博物館実習 II (収集) (倉田芳郎・所理喜夫	9
教育実習(上岡 安彦) .....	2	葉貫磨哉・太田喜美子)	9
教育実習(村山 輝吉) .....	3	博物館実習 III (見学)	9
教育実習(坂本 信昭) .....	3	(倉田芳郎・太田喜美子) ..	9
教育実習(北村 三子) .....	3	博物館実習 IV (特講) (58 年度以前入学生適用)	9
国語科教育法(神谷 道倫) .....	3	(熊野 正也) .....	9
書道科教育法(谷村 義雄) .....	3	視聴覚教育(赤堀 正宜) .....	9
宗教科教育法(松本 皓一) .....	3	日本文化史 II (圭室 文雄) .....	9
英語科教育法(大沢 一雄) .....	4	印度仏教文化史(奈良 康明) .....	9
社会科教育法(地理) (高木 久) .....	4	西洋文化史 I (榎川 一朗) .....	10
社会科教育法(地理) (前期) (長野 覚)	4	西洋文化史 II (三小田 敏雄) .....	10
(後期) (中島義一) .....	4	仏教美術(林 良一) .....	10
社会科教育法(歴史) (野呂 肖生) .....	4	現代美術(宮崎 克己) .....	10
社会科教育法(谷敷 正光) .....	4	禅美術(竹内 尚次) .....	10
社会科教育法(長谷部 八朗) .....	4	美術史概説(林 良一) .....	10
社会科教育法(大久保 治男) .....	5	西域美術史(林 良一) .....	10
職業科教育法(佐藤 規子) .....	5	考古学概説 I (日本) (倉田 芳郎) .....	11
商業科教育法(谷敷 正光) .....	5	考古学概説 II (外国) (量 博満) .....	11
商業実習(前田 幸一) .....	5	考古学特講 I (高浜 秀) .....	11
職業指導(山田 勇治) .....	6	考古学特講 III (川又 正智) .....	11
産業概説(前田 幸一) .....	6	日本民俗学(山折 哲雄) .....	11
世界史概説(中村 道雄) .....	6	仏教民俗学(和田 謙寿) .....	11
世界史概説(渡辺 惇) .....	6	宗教人類学(佐々木 宏幹) .....	11
日本史概説(芥川 龍男) .....	6	考古発掘実習(寺社下 博) .....	11
日本史概説(波田野 富信) .....	6	社会福祉概論(岡田 真) .....	12
地誌学概説(今朝洞 重美) .....	6	障害福祉論(原田 信一) .....	12
地誌学概説(長野 覚) .....	6	社会福祉実習 I (岡田 真) .....	12
地誌学概説(渡邊 盾夫) .....	6	社会福祉法制(小林 弘人) .....	12
自然地理学概説(早船 元峰) .....	7	公的扶助論(近藤 功) .....	12
人文地理学概説(高木 久) .....	7	児童福祉論(原田 信一) .....	13
社会学原論(渡辺 源樹) .....	7	老人福祉論(奥山 正司) .....	13
経済原論(小野 俊夫) .....	7	社会保障概論(藤井 康) .....	13

地域福祉論（岡田 真）	13
ケースワーク論（高橋 重宏）	13
グループワーク論（松本 栄二）	14
社会福祉事業発達史（林 千代）	14
母子福祉論（林 千代）	14
医療社会事業論（春見 静子）	14
社会福祉方法総論（高橋 重宏）	14
社会福祉管理運営論（重田 信一）	14
リハビリテーション論（原田 信一）	15
社会教育概論（磯野 昌蔵）	15
社会教育方法論（村山 輝吉）	15
社会教育行政財政（酒匂 一雄）	15
教育社会学（熊谷 一乗）	15
社会心理学（坪井 健）	15
社会教育施設（村山 輝吉）	15
児童文化（富田 博之）	16
青少年問題研究（和田 謙寿）	16
青少年指導演習（和田 謙寿）	16
社会教育演習（上岡 安彦）	16
教育評価（大浜 幾久子）	16
成人指導及青少年指導（酒匂 一雄）	16
生活指導（秋山 達子）	17
教育哲学（汐見 稔幸）	17
教育調査（大塚 雄作）	17
教育学特講（熊谷 一乗）	17
政治学原論（福岡 政行）	17

## 教育原理

磯野昌蔵

教育とは何か  
中等教育の歴史と問題  
学校教育の役割

## 教育原理

上岡安彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次にそこで、でてくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕 『エミール』〔上・中・下〕（岩波文庫）  
上 ¥550, 中 ¥450, 下 ¥450

〔参考書〕 『教育の原理』〔Ⅰ・Ⅱ〕（東大出版会）  
Ⅰ ¥1,500, Ⅱ ¥1,500

## 教育原理

村山輝吉

主として下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会の関わりを軸とする「教育」の原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしてみたい。

〔参考書〕 『下村湖人全集』全10巻（国土社）  
『教育の原理Ⅰ、Ⅱ』（東大出版会）

## 教育原理

坂本信昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす

10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える
12. 学びへの出発

〔教科書〕 田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

〔参考書〕 教師養成研究会『教育原理』（学芸図書KK）¥950  
デュエイ著・宮原誠一訳『学校と社会』（岩波文庫）¥200

## 教育原理

北村三子

人間社会・人間文化の営み全体の中で教育のありようを問い直してゆくことを目指して、教育の制度・形態・内容・方法をめぐる諸問題や、それらを規定している社会的・歴史的諸問題を考察してゆく。

〔参考書〕 堀尾輝久・松原治郎・寺崎昌男編『教育の原理Ⅰ人間と社会への問い』  
稲垣忠彦・柴田義松・吉田章宏編『教育の原理Ⅱ教師の仕事』（東大出版会）  
1985年Ⅰ・Ⅱとも¥1,500

## 青年心理学

大浜幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題をとりあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

## 青年心理学

藤崎春代

開講時に指示する。

## 青年心理学

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の様々な特徴を見ていく。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考え、自分なりの判断力をもつこともこの授

業のねらいとしたい。

### 青年心理学

渡辺 三和子

大人でも子どもでもない中間的な存在の青年期は、人間の成長のなかで最も激動する時であり、それだけに中高生を理解するのは難しくまたおもしろい。おもにこの時期の精神的な病理現象をとりあげ、そこから現代の中学校・高校教育のおかれている状況と問題点について考えていきたい。

〔参考書〕 笠原 嘉『青年期』（中公新書）

### 教育心理学

大浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題をとりあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

### 教育心理学

藤崎 春代

開講時に指示する。

### 教育心理学

中村 均

1. 発達  
子どもはどのように大人になるか。子どもは大人とどう違うか。
2. 学習  
どのような仕組みで学習は起こるのか。学習を促進させるにはどうしたらよいか。
3. 知能・学力・創造性
4. 人格  
一人一人の違いはどうとらえればよいか。
5. 学級集団  
学級集団はどのような役割を果たすのか。
6. 教育評価

### 教育心理学

荻野 美佐子

教育の場がかかえている問題をきちんと捉え直すことから出発し、問題を解決するために自分で考える態度を形成したい。また、現象を多角的に科学的に見ることができるよう基本的な知識の整理をする。具体的には、子どもの発達、教授＝学習、評価及び教師と生徒のかかわりの問題を主に扱う。

〔参考書〕 開講時に指示する。

### 教育心理学

渡辺 三和子

学ぶことと成長すること、学習活動とは何か、生徒を理解する方法、さまざまな授業の型、集団としての学級、学習の評価等基本的な教育心理学の考え方を学ぶ。また教育の荒廃が語られる昨今、今日の学校教育の問題点を探り、教師としてめざすべき方向について考える。

### 道徳教育の研究

坂本 信昭

開講時に指示する。

### 教育実習

磯野 昌蔵

#### 実習前の指導

教育実習についての諸注意

学習指導のための準備

#### 実習期間中の指導

#### 実習後の指導

グループに分かれ、教育実習の体験をもとにして、学習指導や生活指導の問題を検討する。

### 教育実習

上岡 安彦

#### 事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

## 訪問指導

実習期間の研究授業参加

## 事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥300

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）  
¥300

## 教育実習

村山輝吉

教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるため、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

## 教育実習

坂本信昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成・提出、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、望ましい教師像について一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま『教えるということ』（共文社）  
¥480

『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥300

田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

## 教育実習

北村三子

教育実習前は、実習に際しての注意や心構えなどを中心とする事前指導を行ない、実習後は、現場での体験を相互に交換し、深め合いつつ、学校教育の諸問題や教師の課題などについて考え合う。

## 国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法（新編）』（桜楓社）¥1,200

## 書道科教育法

谷村義雄

文字を書くことは誰でもできることで決してむづかしいことではない。しかし、書は中国においては四千年の歴史があり、日本においても千数百年の歴史がある。この間にいろいろな書体が出来、そしていろいろな書法が生れた。書の芸術は悠遠の歴史の中で開花したもので、現在もまた現在の書が生れつつある。書を単なる文字記号と考える浅薄な思想に対して、書のもつ思想性、民族性を十分に理解して、書とは何かを改めて問いたずら授業にしたいと思う。教育法はどう教えるかではなく、なにを教えるべきかを探求する内容にしたい。

〔参考書〕学習指導要領解説『芸術科』

## 宗教科教育法

松本皓一

宗教科教授法としての理論と実践上留意すべき諸問題を述べる。

〔教科書〕特に指定せず。但し、講義中に教材として指定するものあり。

## 英語科教育法

大 沢 一 雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような教授法を用いたらよいか、発音、語彙（い）、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

## 社会科教育法（地理）

高 木 久

1. 教師としての在り方
2. 地理学方法論の確認
3. 地理教育について
4. 新学習指導要領の内容
5. 地図指導
6. 教育実習の意義
7. 学習指導案の研究
8. 模擬授業

前期において講義を中心とし、後期においては教室での演習を専一とし、その批判・反省を行なって行く。

## 社会科教育法（地理）

（前期）長 野 覚  
（後期）中 島 義 一

中学校・高等学校の社会科（地理）につき、指導計画、指導案の立て方、教材研究、修学旅行の指導法等につき講義し、続いて学生諸君が交代で壇に立って、中学校の教科書（これについては授業時に指示）を使用しての授業演習を行う。なお出席を重視する。

〔教科書〕 山崎謹哉『新訂地理教育の本質と実践』  
（古今書院）

〔参考書〕 授業時に指示する。

## 社会科教育法（歴史）

野 呂 肖 生

「中・高等学校の現場で社会科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

## 社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 梶 哲夫『中等 社会科教育研究』(1)  
（高陵社）

遠山 啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社）

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』（新日本出版新書）

無着成恭『山びこ学校』（角川文庫）

その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

## 社会科教育法

長谷部 八 朗

学校教育が混迷の度を極めている今日、社会科に寄せられる期待はとりわけ大きいといえよう。それは社会科が、生徒の人格形成の枢軸をにない、主体的な社会認識や態度を習得させるところに本来の意義を有しているからに他なるまい。本講義では、この点を踏まえつつ、社会科および社会科教師の果たすべき役割について論じ合っ

ていきたい。具体的な進め方として、前期でわが国の社会科教育の歴史の変遷を鳥瞰的につかみ、後期で教材研究、学習指導、教育評価などの諸テーマを掘り下げて考察する予定である。

なお、受講者の講義参加意識を高めるため、できれば小論文や口答発表を実施する機会も持ちたい。

## 社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法により効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕 『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

## 職業科教育法

佐藤 規 子

職業教育は、教職を志す者に必要であるばかりでなく職業人として社会で貢献するうえでも重要である。本講座では、教職を志す者にすぐ役立つように、前期は職業教育の基礎知識を体系的に講述し、後期は職業教育をテーマに話し合いながら、指導の実践までを取扱う。

（前期） 一基礎編（教材研究を中心）一

- ①職業教育の意義及び重要性
- ②新しい職業教育
- ③職業教育の基礎知識・技能

（後期） 一応用編（指導実践を中心）一

- ①職業科目から指導案を作成し、模擬授業
- ②教育上の問題について研究発表

## 商業科教育法

谷 敷 正 光

「職業教育」（産業教育）の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視

され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にともなう、商業教育は大きく軌道修正されさらに、先端産業化時代をむかえ、再び修正されようとしている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）  
矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕 竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』

（有斐閣）

田代三良『高校生』（岩波新書）

神田 修『学校からみた教育政策』（有斐閣）

その他、商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

## 商業実習

前 田 幸 一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。

## 職業指導

山田 勇 治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕 山田勇治著『会計教育論』（創成社）  
¥1,300

〔参考書〕 近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』（福村出版） ¥1,500

## 産業概説

前 田 幸 一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、各産業についてその特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔教科書〕 宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』（有斐閣） ¥1,400

〔参考書〕 日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社） ¥1,800

## 世界史概説

中 村 道 雄

主にヨーロッパおよびアメリカ世界の歴史を概説する。参考書にはこの外高校時代の世界史教科書も利用される。

〔教科書〕 衣笠・田村・中村・廣實『概説西洋史』（東京創元社）

〔参考書〕 帝国書院編集部編『評密世界史地図』（十二訂版）（帝国書院）

## 世界史概説

渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕 特に定めず、プリント・資料を配布する。

## 日本史概説

芥 川 龍 男

中世に焦点をおいて講義する。講義の中で参考文献などを紹介するが、積極的に読破して欲しい。評価はレポートおよびテストなどを総合的に見て評価する。

教科書・参考書はとくに指定しない。開講時に詳細な注意事項を話します。

## 日本史概説

波 田 野 富 信

時間数の関係から、日本史全般を各分野にわたって講ずることは不可能に近いから、日本の歴史の流れの中からそれぞれ重要事項をとりあげて理解してもらおう。従って各々がそれぞれに前もって予習をしてきて欲しい。

〔参考書〕 『新稿 日本史概論』（吉川川弘文館）  
¥1,500

## 地誌学概説

今 朝 洞 重 美

地誌学の本質論を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

## 地誌学概説

長 野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎共著『世界地誌』（改訂版）  
（大明堂）

## 地誌学概説

渡 邊 盾 夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について日本地誌と比較しながら講義する。受講希望者は地図帳を持参して下さい。

## 自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意(10枚程度)させ、それらをもとに種々なる作業(土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成)をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

## 人文地理学概説

高 木 久

地理学の思想・歴史を述べ、歴史地理学の立場から人文地理学の方法論を考察する。

「地理的な見方、考え方」の基礎の上に立って、人文地理学の各部門(地図、自然、人文関係)について概説し、人文地理学の理解と関心を深める。

## 社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

## 経済原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを日ざす。

〔教科書〕 開講の際に指示する。

## 政治学原論

上 條 末 夫

開講時に指示する。

## 民法 I

山 崎 敏 彦

われわれの日常生活を規律する民法のうち、総則・物権法を扱う。その際、できるだけ多くの裁判例を示すことによって、よりよく理解していただけるよう努めたい。

聴講にあたっては、教科書のほか、小型のものでよいから「六法」を持参されたい。

〔教科書〕 我妻=有泉『民法I』(一粒社)

## 哲学特講 I (東洋)

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかに受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕 『荘子』第一冊(岩波文庫)

## 哲学特講 II (西洋)

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

## 宗教学特講 I

松 田 文 雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔参考書〕 随時指示する。

## 宗教学特講Ⅱ

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想・教義、儀礼、教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』  
(日新出版)

## 宗教学特講Ⅲ

洗 建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

## 教育史

磯野昌蔵

わが国における青年期教育の発達を検討する。

## 宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』  
1985・10 (鈴木出版) 刊 ¥5,800

## 教育関係法規

船木正文

本講義のねらいは、教育基本法を中心とする現行の教育関係法規を体系的に概観することにある。その際、今日生起しているさまざまな教育問題について具体的に取

上げ、教育関係法規にてらして説明していく予定である。  
〔参考書〕 『解説教育六法・昭和62年版』(三省堂)

## 図書館学Ⅰ

山崎慶子

児童・生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか。増大する一方の出版物や各種の情報が増える現代社会において、それを選択し活用する力を高めるにはどうしたらよいか。また人間形成に役立つ読書のあり方などの追求を、教育の場の中心ともいべき学校図書館活動として考察していきたい。さらに生涯教育の場である公立図書館の使命や役割への理解を深めようになりたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」を、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』(学芸図書)

## 図書館学Ⅱ

源 昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、「図書の整理」、「図書の選択」、「図書以外の資料の利用」が主として論ぜられる。前期には、図書の目録・分類(資料組織法)に関する概念的フレーム・ワークおよび組織化のための基本的規則についてのべる。後期には、学校図書館での図書選択の基準、方法、目的を講述し、つぎに、図書以外の資料の利用方法を解説する。

〔教科書〕 図書教育研究会『新編学校図書館通論』  
(学芸図書)

日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 新版予備版』(日本図書館協会)  
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 新版予備版 追録および修正』  
(日本図書館協会)

## 博物館学Ⅰ

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ(見学)」ならびに「実習Ⅳ(特講)」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午

後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難かしいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

## 博物館学Ⅱ

熊野正也

地域における歴史博物館をとりあげ、数々の実践を通じてその展示と諸活動の方法について講述する。

## 博物館実習Ⅰ（館務）

倉田 芳郎・清水 潤三

博物館で10間以上の学芸員についての実習を行う。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

## 博物館実習Ⅱ（収集）

倉田 芳郎・所 理喜夫  
葉 貴 磨哉・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 8月下旬と2月中旬
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬
5. 遺跡分布調査 2月中下旬

## 博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。  
都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足

である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

## 博物館実習Ⅳ（特講）

（58年度以前入学生適用）熊野正也

博物館における専門職としての学芸員には、博物館側からと利用者側からとは一体何がのぞまれているか。過去・現在の学芸員のあり方から、これからの学芸員は具体的にどうあるべきかを追究する。と同時に、できるだけ実務を体験できるよう配慮していきたい。

## 視聴覚教育

赤堀正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材の利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔参考書〕 大内茂男・中野照海他編『視聴覚教育の理論と研究』（日本放送教育協会）

## 日本文化史Ⅱ

圭室文雄

日本文化史の流れのなかで、その支柱となっているのは宗教である。とくに時代の思想の主導を宗教がなった時期としては、大別して三つある。第一は鎌倉時代、第二は江戸時代、第三は明治時代である。そこで本年はこの三つの時期に焦点を合せながら、史料に拠って、先人達の生きざまを検討してみたいと思う。そして、その中から日本人の歴史における価値観をあきらかにしたい。

〔教科書〕 池田・大浜・圭室編『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

〔参考書〕 笠原一男編『日本宗教史Ⅱ』（山川出版社）

## 印度仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟

され、伝達されてゆく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の側面を明らかにするものであることは疑われない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいをみるところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕 辛島 昇編『インド入門』（東大出版会）  
奈良康明『仏教史Ⅰーインド、東南アジア』（山川出版）

## 西洋文化史Ⅰ

椽 川 一 朗

西洋都市史とくにドイツ中・近世都市史の講述。

## 西洋文化史Ⅱ

三小田 敏 雄

今年度はギリシア・ローマの文化を取り上げる。今日われわれがギリシア文化と呼んでいるものは、いつごろから現われたのか、そしてその特質はどんなものか、をできるだけ翻訳史料をあたりながら調べ、遺跡や彫刻を通じて確認してみる。ローマ時代にオリエントの影響が増大し最後にキリスト教の伝播によって、中世文化が生まれるところまで講義する予定である。教科書および参考書は開講時に指示する。

## 仏教美術

林 良 一

インドにおける古代初期よりガンダーラ期の仏像成立にいたるまでの展開および仏教美術の図像学について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、現地撮影のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔教科書〕 林 良一著『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社） ¥ 2,200

## 現代美術

宮 崎 克 己

1870年代のフランス印象派成立前後の様々な問題について考える。印象派を詳しく論ずるだけでなく、印象派が西洋の長い美術の伝統の中でどのような意味を持っていたか、また印象派が現代美術にどのような新しい道を拓かせたかを幅広く論ずる。出席者には、適宜、美術館、展覧会の見学を要求する。

## 禅美術

竹 内 尚 次

禅林美術の本質と虚像とは、紙一重の差である。その本質を探ることは難しいが不可能ではない。そこに在る高貴な精神性、つまり詩心を見て取ることである。

東洋美術としての日本美術の大半は佛教芸術で占められる。その歴史上の展開は、古代仏教美術・法隆寺金堂壁画を中心とする一群、平安時代の密教美術・兩界曼荼羅、浄土教美術・鳳凰堂板絵、宮廷美術絵巻などがある。

これに次いで、禅宗東渡による哲学性の深い禅林美術が鎌倉室町時代に展開する。私たちは、心の中心に禅林美術をおいて、他のジャンルと対比し乍ら、そのなかに内在するものを参尋したいと思います。欲を云へば、古美術作品の取扱いなどの実習を別な時間で行いたい。

〔教科書〕 竹内尚次著『近世禅林美術』（至文堂）

〔参考書〕 竹内尚次著『群馬の思想（風外）』（あさお社）

玉村竹二著『夢窓国師』（平楽寺書店）

## 美術史概説

林 良 一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

## 西域美術史

林 良 一

アフガニスタンより東西のトルキスタンにいたる西域美術を、仏教美術の東伝を中心に、各地の遺跡および遺品について講述する。現地の遺構や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔教科書〕 林 良一著『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社） ¥2,200

### 考古学概説Ⅰ（日本）

倉田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。  
年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

### 考古学概説Ⅱ（外国）

量 博 満

中国および東南アジア地域における考古学を概観する。必ずしも時代を逐って祖述するのではなしに、研究史を踏まえたのちは、当該地域の先史学ないし考古学における今日の問題点をあげ、その吟味や検討を行うことによって、考古学という科学を理解しよう。なお、地域研究が人類史上の一般則の形成にどうかかわり、どんな寄与をなすのか、と考えるのも講師の問題意識のひとつである。参考書は、講義中に適時示されよう。

### 考古学特講Ⅰ

高 浜 秀

ハンガリーから中国の北方オルドス地方に至るユーラシア北方草原地帯には、紀元前8～7世紀以後、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が広がっていた。講義では、これらの文化に関する諸問題を扱う。今回は特にオルドスの青銅器文化を中心にする予定である。

### 考古学特講Ⅲ

川 又 正 智

メソポタミア青銅器時代を中心に西アジア考古学の基礎的知識を学ぶ。あわせて西アジアからみたアジア史の流れを考えたい。

〔参考書〕 授業中に紹介する。

### 日本民俗学

山 折 哲 雄

柳田国男と折口信夫の民俗学について考察し、現代文化の諸相に光をあてる。

〔教科書〕 山折著『神と仏』（講談社新書）

### 仏教民俗学

和 田 謙 寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や霊魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言える。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展』（仏教民俗研究会） ¥2,900

### 宗教人類学

佐々木 宏 幹

宗教がある社会においてどのような意義と役割をもつかという問題を考察することを主眼としながら、宗教と人生観・世界観との関係、宗教儀礼の象徴的性格などについて、とくに言及したい。

### 考古発掘実習

寺 社 下 博

野外における考古発掘実習を行なう。20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。





















